

昭和医科大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3第1項及び医療法施行規則(昭和23年厚生省令第50号)第9条の2の2の第1項の規定に基づき、令和6年度の業務に関して報告します。

1 開設者の住所及び氏名

住所	〒142-8666 東京都品川区旗の台1-5-8
氏名	学校法人昭和医科大学 理事長 小口勝司

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名称

昭和医科大学病院

3 所在の場所

〒142-8666 東京都品川区旗の台1-5-8
電話(03)3784-8000 (代表)

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

○	1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
	2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し○を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1)内科

内科				有			
内科と組み合わせた診療科名等							
○	1呼吸器内科	○	2消化器内科	○	3循環器内科	○	4腎臓内科
○	5神経内科	○	6血液内科	○	7内分泌内科	○	8代謝内科
○	9感染症内科	○	10アレルギー疾患内科またはアレルギー科			○	11リウマチ科
診療実績							

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科				有			
外科と組み合わせた診療科名							
○	1呼吸器外科	○	2消化器外科	○	3乳腺外科	○	4心臓外科
○	5血管外科	○	6心臓血管外科	○	7内分泌外科	○	8小児外科
診療実績							

(注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること(「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと)。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

○	1精神科	○	2小児科	○	3整形外科	○	4脳神経外科
○	5皮膚科	○	6泌尿器科		7産婦人科	○	8産科
○	9婦人科	○	10眼科	○	11耳鼻咽喉科	○	12放射線科
○	13放射線診断科	○	14放射線治療科	○	15麻酔科	○	16救急科

(注) 標榜している診療科名に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科				有			
歯科と組み合わせた診療科名							
	1小児歯科		2矯正歯科	○	3歯科口腔外科		
歯科の診療体制							

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1	リハビリテーション科	2	性病科	3	臨床検査科	4	病理診断科	5	糖尿病内科
6	腫瘍内科	7	緩和ケア内科	8	肛門外科	9	気管・食道外科	10	形成外科
11		12		13		14		15	
16		17		18		19		20	
21		22		23		24		25	

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
0	0	0	0	815	815

(単位:床)

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	603	688	740.6	看護補助者	9	診療エックス線技師	
歯科医師	6	3	6.6	理学療法士	22	臨床検査技師	52
薬剤師	85	4	87.4	作業療法士	12	衛生検査技師	
保健師				視能訓練士		その他	
助産師	70		70	義肢装具士		あん摩マッサージ指圧師	
看護師	1,009	14	1,017	臨床工学士	42	医療社会事業従事者	7
准看護師				栄養士	1	その他の技術員	21
歯科衛生士	3		3	歯科技工士		事務職員	129
管理栄養士	8		8	診療放射線技師	60	その他の職員	2

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人数(人)	専門医名	人数(人)
総合内科専門医	53.8	眼科専門医	7
外科専門医	54.2	耳鼻咽喉科専門医	14.5
精神科専門医	3	放射線科専門医	17
小児科専門医	30	脳神経外科専門医	16
皮膚科専門医	10.2	整形外科専門医	23
泌尿器科専門医	7	麻酔科専門医	17
産婦人科専門医	25	救急科専門医	8
		合計	285.7

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (病 院 長 相 良 博 典) 任 命 年 月 日 令和 2 年 4 月 1 日

平成27年4月1日～ 医療安全管理・対策委員会 委員
令和2年4月1日～ 医療安全管理・対策委員会 委員長

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外		歯科等		合計
1日当たり平均入院患者数	602.3	人	0	人	602.3 人
1日当たり平均外来患者数	1,511.8	人	65.8	人	1,582.1 人
1日当たり平均調剤数	5,947.6				剤
必要医師数	150.9				人
必要歯科医師数	3				人
必要薬剤師数	74.35				人
必要(准)看護師数	351.5				人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二条の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
集中治療室	925.6 ㎡	鉄筋コンクリート	病床数	51 床	心電計	有
			人工呼吸装置	有	心細動除去装置	有
			その他の救急蘇生装置	有	ペースメーカー	有
無菌病室等	[固定式の場合]	床面積	71.89	㎡	病床数	6 床
	[移動式の場合]	台数	4	台		
医薬品情報 管理室	[専用室の場合]	床面積	22.7			㎡
	[共用室の場合]	共用する室名				
化学検査室	51.8 ㎡		(主な設備) 生化学自動分析装置(BM6010)			
細菌検査室	14.8 ㎡		(主な設備) 血液培養自動分析装置(BACTEC-FX)			
病理検査室	91.4 ㎡		(主な設備) 凍結ミクロトーム装置(ライカCM1950)			
病理解剖室	97.8 ㎡		(主な設備) 解剖台・冷蔵庫・光触媒環境浄化装置(SSC-75hi-Y)			
研究室	20,243 ㎡		(主な設備)			
講義室	5,340 ㎡		室数	16 室	収容定員	2,593 人
図書室	1,525 ㎡		室数	1 室	蔵書数	350,000 冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	91.2	%	逆紹介率	94.4	%
算出 根拠	A: 紹介患者の数		25,314 人		
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		26,221 人		
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		4,592 人		
	D: 初診の患者の数		27,771 人		

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由(注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害 関係	委員の要件 該当状況
近藤 昌昭	弁護士	○	医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者、その他の学識経験を有する者	無	1
坂下 暁子	昭和医科大学横浜市北部病院病院長		医療に関する学識経験者	無	1
成重 光則	患者代表		医療従事者以外の者で医療を受ける者	無	2

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有
委員の選定理由の公表の有無	有
公表の方法	
昭和医科大学病院ホームページに掲載	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先 進 医 療 の 種 類	取扱い患者数 (人)
子宮内細菌叢検査2	3人
子宮内膜受容能検査2	0人
膜構造を用いた生理学的精子選択術 不妊症(卵管性不妊、男性不妊、機能性不妊又は一般不妊治療が無効であるものに限る。)	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
先進医療の種類の合計数	3
取扱い患者数の合計(人)	3人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先 進 医 療 の 種 類	取扱患者数
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
先進医療の種類合計数	
扱い患者数の合計(人)	0人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類の合計数	
取扱い患者数の合計(人)	0

4 指定難病についての診療

疾患名	患者数	疾患名	患者数
1 球脊髄性筋萎縮症	2	71 チャージ症候群	1
2 筋萎縮性側索硬化症	15	72 クリオリン関連周期熱症候群	1
3 脊髄性筋萎縮症	1	73 若年性特発性関節炎	3
4 進行性核上性麻痺	10	74 非典型性溶血性尿毒症症候群	1
5 パーキンソン病	303	75 脊髄空洞症	5
6 大脳皮質基底核変性症	7	76 脊髄腫瘍	1
7 ハンチントン病	2	77 脳表ヘモジデリン沈着症	1
8 シャルコー・マリー・トウース病	1	78 前頭側頭葉変性症	2
9 重症筋無力症	78	79 ビッカーstaff脳幹脳炎	1
10 多発性硬化症／視神経脊髄炎	61	80 痙攣重積型(二相性)急性脳症	1
11 慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー	12	81 限局性皮質異形成	2
12 封入体筋炎	3	82 先天性大脳白質形成不全症	1
13 多系統萎縮症	16	83 海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	3
14 脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	17	84 ウェスト症候群	1
15 ミトコンドリア病	1	85 レット症候群	1
16 もやもや病	13	86 結節性硬化症	5
17 進行性多巣性白質脳症	1	87 色素性乾皮症	1
18 HTLV-1関連脊髄症	2	88 類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	9
19 特発性基底核石灰化症	1	89 特発性後天性全身性無汗症	5
20 全身性アミロイドーシス	1	90 マルフアン症候群／ロイス・ディーツ症候群	3
21 遠位型ミオパチー	2	91 ウィルソン病	6
22 神経線維腫症	2	92 低ホスファターゼ症	1
23 天疱瘡	8	93 ウィリアムズ症候群	1
24 スティーヴンス・ジョンソン症候群	4	94 無脾症候群	1
25 高安静脈炎	7	95 4p欠失症候群	1
26 巨細胞性動脈炎	19	96 22q11.2欠失症候群	1
27 結節性多発動脈炎	10	97 修正大血管転位症	6
28 顕微鏡的多発血管炎	48	98 完全大血管転位症	8
29 多発血管炎性肉芽腫症	58	99 単心室症	10
30 好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	17	100 左心低形成症候群	2
31 悪性関節リウマチ	13	101 三尖弁閉鎖症	4
32 パージャール病	1	102 心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	2
33 全身性エリテマトーデス	843	103 ファロー四徴症	12
34 皮膚筋炎／多発性筋炎	288	104 両大血管右室起始症	11
35 全身性強皮症	28	105 急速進行性糸球体腎炎	30
36 混合性結合組織病	13	106 抗糸球体基底膜腎炎	14
37 シェーグレン症候群	452	107 一次性不フローゼ症候群	2
38 成人発症ステル病	18	108 紫斑病性腎炎	4
39 再発性多発骨炎	2	109 先天性腎性尿崩症	1
40 ベーチェット病	32	110 間質性膀胱炎(ハンナ型)	1
41 特発性拡張型心筋症	9	111 オスラー病	2
42 肥大型心筋症	14	112 閉塞性細気管支炎	1
43 再生不良性貧血	27	113 副甲状腺機能低下症	9
44 自己免疫性溶血性貧血	105	114 ビタミンD依存性くる病／骨軟化症	3
45 発作性夜間ヘモグロビン尿症	21	115 プロピオン酸血症	1
46 血栓性血小板減少性紫斑病	107	116 メチルマロン酸血症	1
47 原発性免疫不全症候群	21	117 グルコーストランスポーター1欠損症	1
48 IgA 腎症	55	118 シトステロール血症	1
49 多発性嚢胞腎	10	119 原発性高カイロミクロン血症	1
50 後縦靱帯骨化症	2	120 家族性地中海熱	10
51 広範脊柱管狭窄症	1	121 強直性脊椎炎	5
52 特発性大腿骨頭壊死症	5	122 肋骨異常を伴う先天性側弯症	1
53 下垂体性PRL分泌亢進症	1	123 骨形成不全症	1
54 クッシング病	5	124 軟骨無形成症	1
55 下垂体前葉機能低下症	78	125 リンパ管腫症／ゴーハム病	1
56 家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	1	126 後天性赤芽球癆	1
57 甲状腺ホルモン不応症	1	127 エプスタイン症候群	1
58 アジソン病	8	128 総排泄腔遺残	1
59 サルコイドーシス	87	129 アラジール症候群	1
60 特発性間質性肺炎	42	130 IgG4関連疾患	153
61 肺動脈性肺高血圧症	1	131 好酸球性副鼻腔炎	70
62 慢性血栓性肺高血圧症	7	132 先天性肺静脈狭窄症	1
63 リンパ脈管筋腫症	1	133 大理石骨病	1
64 網膜色素変性症	4	134 先天性気管狭窄症／先天性声門下狭窄症	1
65 原発性胆汁性胆管炎	144	135 家族性低βリポタンパク血症1(ホモ接合体)	1
66 原発性硬化性胆管炎	1	136 ホモシスチン尿症	2
67 自己免疫性肝炎	72	137 線毛機能不全症候群(カルタゲナー症候群を含む。)	1
68 クローン病	20	138	
69 潰瘍性大腸炎	65	139	
70 好酸球性消化管疾患	1	140	

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

疾患数	137
合計患者数(人)	3,767

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・医療DX推進体制整備加算	・褥瘡ハイリスク患者ケア加算
・歯科点数表の初診料の注1に規定する施設基準	・ハイリスク妊娠管理加算
・歯科外来診療医療安全対策加算1	・ハイリスク分娩等管理加算
・歯科外来診療感染対策加算2	・呼吸ケアチーム加算
・特定機能病院入院基本料(7対1)(入院栄養管理体制加算)	・後発医薬品使用体制加算1
・救急医療管理加算	・バイオ後続品使用体制加算
・超急性期脳卒中加算	・病棟薬剤業務実施加算1(薬剤業務向上加算)
・診療録管理体制加算3	・病棟薬剤業務実施加算2
・医師事務作業補助体制加算2(15対1)	・データ提出加算2 イ
・急性期看護補助体制加算(25対1)補助者5割以上、夜間急性期看護補助体制加算(100対1)、夜間看護体制加算、看護補助体制充実加算2	・入退院支援加算1(入院時支援加算)
・看護職員夜間配置加算(12対1配置加算1)	・入退院支援加算3
・療養環境加算	・せん妄ハイリスク患者ケア加算
・重症者等療養環境特別加算	・精神疾患診療体制加算
・無菌治療室管理加算1	・排尿自立支援加算
・無菌治療室管理加算2	・地域医療体制確保加算
・緩和ケア診療加算(個別栄養食事管理加算)	・救命救急入院料1(小児加算)(救急体制充実加算1)(早期離床・リハビリテーション加算)
・精神科リエゾンチーム加算	・特定集中治療室管理料1(小児加算)(救急体制充実加算1)(早期離床・リハビリテーション加算)
・栄養サポートチーム加算	・特定集中治療室管理料3(小児加算)(早期離床・リハビリテーション加算)
・医療安全対策加算1	・ハイケアユニット入院医療管理料1(早期離床・リハビリテーション加算)
・感染防止対策向上加算1(指導強化加算)	・総合周産期特定集中治療室管理料1・2(成育連携支援加算)
・患者サポート体制充実加算	・新生児治療回復室入院医療管理料
・重症患者初期支援充実加算	・小児入院医療管理料1(プレイルーム加算)(養育支援体制加算)
・報告書管理体制加算	・
・	・
・	・
・	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ウイルス疾患指導料注2に規定する施設基準	・乳腺悪性腫瘍手術(乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))
・外来栄養食事指導料の注2に規定する基準	・ゲル充填人工乳房を用いた再建手術(乳房切除後)
・心臓ペースメーカー指導管理料(遠隔モニタリング加算)	・胸腔鏡下拡大胸腺摘出術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・糖尿病合併症管理料	・胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術及び胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・がん性疼痛緩和指導管理料	・気管支バルブ留置術
・がん患者指導管理料イ	・胸腔鏡下肺切除術(区域切除及び肺葉切除術又は1肺葉を超えるものに限る。)(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・がん患者指導管理料ロ	・肺悪性腫瘍手術(壁側・臓側胸膜全切除(横隔膜、心膜合併切除を伴うもの)に限る。)
・がん患者指導管理料ハ	・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(区域切除及び肺葉切除又は1肺葉を超えるものに限る。)(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・がん患者指導管理料ニ	・胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・外来緩和ケア管理料	・縦隔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・移植後患者指導管理料(臓器移植後)	・食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃・十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、小腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)結腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腎(腎盂)腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、尿管腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、膀胱腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)及び陰腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)
・移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	
・糖尿病透析予防指導管理料	・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
・小児運動器疾患指導管理料	・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)(アテローム切除アブレーション式血管形成術用カテーテルによるもの)
・乳腺炎重症化予防ケア・指導料	・胸腔鏡下弁形成術及び胸腔鏡下弁置換術
・婦人科特定疾患治療管理料	・経カテーテル弁置換術(経心尖大動脈弁置換術及び経皮的大動脈弁置換術)
・腎代替療法指導管理料	・経カテーテル弁置換術(経皮的肺動脈弁置換術)
・一般不妊治療管理料	・経皮的僧帽弁クリップ術
・生殖補助医療管理料1	・不整脈手術(左心耳閉鎖術(経カテーテル的手術によるもの))
・地域連携小児夜間・休日診療料2	・磁気ナビゲーション加算
・地域連携夜間・休日診療料	・経皮的中隔心筋焼灼術
・院内トリアージ実施料	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
・外来放射線照射診療料	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)
・外来腫瘍化学療法診療料1(連携充実加算)	・両心室ペースメーカー移植術(心筋電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(心筋電極の場合)
・ニコチン依存症管理料	・両心室ペースメーカー移植術(経静脈電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(経静脈電極の場合)

・療養・就労両立支援指導料(相談支援加算)	・植込型除細動器移植術(心筋リードを用いるもの)及び植込型除細動器交換術(心筋リードを用いるもの)
・がん治療連携計画策定料	・植込型除細動器移植術(経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの)、植込型除細動器交換術(その他のもの)及び経静脈電極抜去術
・外来排尿自立指導料	・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(心筋電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(心筋電極の場合)
・ハイリスク妊産婦連携指導料1	・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(経静脈電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(経静脈電極の場合)
・肝炎インターフェロン治療計画料	・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
・薬剤管理指導料	・経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)
・医療機器安全管理料1	・経皮的下肢動脈形成術
・医療機器安全管理料2	・腹腔鏡下リンパ節群郭清術(傍大動脈)
・歯科治療時医療管理料	・腹腔鏡下小切開骨盤内リンパ節群郭清術
・救急患者連携搬送料	・腹腔鏡下小切開後腹膜リンパ節群郭清術
・遠隔モニタリング加算(在宅持続陽圧呼吸療法指導管理料)	・腹腔鏡下小切開後腹膜腫瘍摘出術及び腹腔鏡下小切開後腹膜悪性腫瘍手術
・在宅腫瘍治療電場療法指導管理料	・内視鏡的逆流防止粘膜切除術
・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合)皮下連続式グルコース測定	・腹腔鏡下十二指腸局所切除術(内視鏡処置を併施するもの)
・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合)	・腹腔鏡下胃切除術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))
・遺伝学的検査の注2に規定する基準	・腹腔鏡下胃切除術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))
・染色体検査の注2に規定する基準	・腹腔鏡下噴門側胃切除術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))
・骨髄微小残存病変量測定	・腹腔鏡下噴門側胃切除術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))
・BRCA1/2遺伝子検査	・腹腔鏡下胃全摘術(単純全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))
・がんゲノムプロファイリング検査	・腹腔鏡下胃全摘術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))
・先天性代謝異常症検査	・バルーン閉塞下経静脈的塞栓術
・抗アデノ随伴ウイルス9型(AAV9)抗体	・腹腔鏡下胆嚢悪性腫瘍手術(胆嚢床切除を伴うもの)
・抗HLA抗体(スクリーニング検査)及び抗HLA抗体(抗体特異性同定検査)	・胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)

・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	・体外衝撃波胆石破砕術
・ウイルス・細菌核酸多項目同時検出	・腹腔鏡下肝切除術(部分切除及び外側区域切除)
・ウイルス・細菌核酸多項目同時検出(髄液)	・腹腔鏡下肝切除術(亜区域切除、1区域切除、2区域切除及び3区域切除以上)
・検体検査管理加算(Ⅰ)	・腹腔鏡下肝切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・検体検査管理加算(Ⅱ)	・生体部分肝移植術
・遺伝カウンセリング加算	・体外衝撃波膵石破砕術
・遺伝性腫瘍カウンセリング加算	・腹腔鏡下膵腫瘍摘出術及び腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト	・腹腔鏡下膵頭部腫瘍切除術
・胎児心エコー法	・腹腔鏡下膵頭部腫瘍切除(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・ヘッドアップティルト試験	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・皮下連続式グルコース測定	・腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・脳波検査判断料1	・内視鏡的小腸ポリープ切除術
・神経学的検査	・腹腔鏡下小切開副腎摘出術
・補聴器適合検査	・腹腔鏡下直腸切除・切断術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・小児食物アレルギー負荷検査	・腹腔鏡下副腎摘出手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・内服・点滴誘発試験	・腹腔鏡下副腎髄質腫瘍摘出手術(褐色細胞腫)(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・センチネルリンパ節生検	・体外衝撃波腎・尿管結石破砕術
・前立腺針生検法(MRI撮影及び超音波検査融合画像によるもの)	・腹腔鏡下小切開腎部分切除術、腹腔鏡下小切開腎摘出術、腹腔鏡下小切開腎(尿管)悪性腫瘍手術
・口腔細菌定量検査	・腎腫瘍凝固・焼灼術(冷凍凝固によるもの)
・有床義歯咀嚼機能検査1の口及び咀嚼能力検査	・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・有床義歯咀嚼機能検査2の口及び咬合圧検査	・腹腔鏡下尿管悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)

・精密触覚機能検査	・腹腔鏡下腎盂形成手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・画像診断管理加算1	・同種死体腎移植術
・画像診断管理加算4	・生体腎移植術
・遠隔画像診断	・腹腔鏡下小切開尿管腫瘍摘出術
・CT撮影及びMRI撮影	・膀胱水圧拡張術
・64列以上のマルチスライス型の機器によるCT撮影	・ハンナ型間質性膀胱炎手術(経尿道)
・3ステラ以上の機器によるMRI撮影	・腹腔鏡下小切開膀胱腫瘍摘出術
・冠動脈CT撮影加算	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・血流予備比コンピューター断層撮影	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・外傷全身CT加算	・人工尿道括約筋植込・置換術
・心臓MRI撮影加算	・埋没陰茎手術及び陰嚢水腫手術(鼠径部切開によるもの)
・乳房MRI撮影加算	・精巣温存手術
・頭部MRI撮影加算	・腹腔鏡下小切開前立腺悪性腫瘍手術
・全身MRI撮影加算	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・抗悪性腫瘍剤処方管理加算	・腹腔鏡下仙骨腔固定術
・外来化学療法加算1	・腹腔鏡下仙骨腔固定術(内視鏡手術用支援機器を用いた場合)
・無菌製剤処理料	・腹腔鏡下腔式子宮全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)(初期加算)(急性期リハビリテーション加算)	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)
・脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅱ)(初期加算)(急性期リハビリテーション加算)	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮頸がんに限る。)
・運動器リハビリテーション料(Ⅰ)(初期加算)(急性期リハビリテーション加算)	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに対して内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)(初期加算)(急性期リハビリテーション加算)	・腹腔鏡下子宮瘢痕部修復術
・がん患者リハビリテーション料	・胎児胸腔・羊水腔シャント術

・リンパ浮腫複合的治療料	・胎児輸血術
・歯科口腔リハビリテーション料2	・体外式膜型人工肺管理料
・エタノールの局所注入(甲状腺に対するもの)	・乳房切除術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群の患者に対して行うものに限る。)
・エタノールの局所注入(副甲状腺に対するもの)	・子宮附属器腫瘍摘出術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群の患者に対して行うものに限る。)
・人工腎臓(慢性維持透析1)(導入期加算3)(透析液水質確保加算および慢性維持透析濾過加算)(下肢末梢動脈疾患指導管理加算)	・輸血管理料Ⅰ
・移植後抗体関連型拒絶反応治療における血漿交換療法	・輸血適正使用加算
・ストーマ合併症加算	・コーディネート体制充実加算
・心不全に対する遠赤外線温熱療法	・自己クリオプレシピテート作製法(用手法)
・歯科技工士連携加算1及び光学印象歯科技工士連携加算	・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
・CAD／CAM冠及びCAD／CAMインレー	・レーザー機器加算
・皮膚悪性腫瘍切除術(皮膚悪性腫瘍センチネルリンパ節生検加算を算定する場合に限る。)	・麻酔管理料(Ⅰ)
・自家脂肪注入	・麻酔管理料(Ⅱ)
・組織拡張器による再建手術(一連につき)(乳房(再建手術)の場合に限る。)	・周術期薬剤管理加算
・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(同種骨移植(非生体)(同種骨移植(特殊なものに限る。)))	・放射線治療専任加算
・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)	・外来放射線治療加算
・後縦靱帯骨化症手術(前方進入によるもの)	・高エネルギー放射線治療
・椎間板内酵素注入療法	・1回線量増加加算(全乳房照射)
・緊急穿頭血腫除去術	・強度変調放射線治療(IMRT)
・内視鏡下脳腫瘍生検術	・1回線量増加加算(前立腺照射)
・内視鏡下脳腫瘍摘出術	・画像誘導放射線治療加算(IGRT)
・脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)及び脳刺激装置交換術、脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	・体外照射呼吸性移動対策加算
・仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術	・定位放射線治療

・経外耳道的内視鏡下鼓室形成術	・定位放射線治療呼吸性移動対策加算
・植込型骨導補聴器(直接振動型)植込術、人工中耳植込術、人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術	・画像誘導密封小線源治療加算
・耳管用補綴材挿入術	・保険医療機関間の連携による病理診断
・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)	・病理診断管理加算2
・経鼻内視鏡下鼻副鼻腔悪性腫瘍手術(頭蓋底郭清、再建を伴うもの)	・悪性腫瘍病理組織標本加算
・鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む)	・クラウン・ブリッジ維持管理料
・鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む)(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)、鏡視下喉頭悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・看護職員処遇改善評価料
・内喉頭筋内注入術(ボツリヌス毒素によるもの)	・外来・在宅ベースアップ評価料(I)
・頭頸部悪性腫瘍光線力学療法(歯科診療以外の診療に係るものに限る。)	・歯科外来・在宅ベースアップ評価料(Ⅰ)
・乳腺腫瘍画像ガイド下吸引術(MRIによるもの)	・入院ベースアップ評価料
・乳腺悪性腫瘍手術(乳癌センチネルリンパ節生検加算1又は乳癌センチネルリンパ節生検加算2を算定する場合に限る。)	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。
(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	1. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 ②. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。	
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	昭和大学病院CPC：17回（2024年度） 臨床病理診断科内検討会：165回（2024年度）	
剖 検 の 状 況	剖検症例数(例)	43
	剖検率(%)	5.80%

1 「臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況」欄については、選択肢の1・2どちらかを選択する(○で囲む等)こと
(注)2 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
腹筋仙骨間距離が嚥下機能におよぼす病態の解明	永井 隆士	リハビリテーション科	1,000,000	補委 日本学術振興会
Avidityに着目した食物経口免疫療法の出口戦略	岡田 祐樹	小児科	1,000,000	補委 日本学術振興会
脊椎術後骨量減少の診断・治療法の確立	岡野 市郎	整形外科	500,000	補委 日本学術振興会
深層学習モデルで解き明かす発達性てんかん性脳症と脳形成異常の遺伝素因と画像診断	加藤 光広	小児科	1,300,000	補委 日本学術振興会
AIを活用した食道がん術後再発に対する放射線治療の効果予測	加藤 正子	放射線治療科	200,000	補委 日本学術振興会
少子化対策としての心停止下提供子宮移植普及へ向けた基礎研究(動物実験モデル)	加藤 容二郎	消化器・一般外科	700,000	補委 日本学術振興会
周術期のための遠隔プレハビリテーションシステムの開発とその効果検証	笠井 史人	リハビリテーション科	1,600,000	補委 日本学術振興会
妊婦血漿中cfDNAのゲノム解析データを用いた周産期予後の評価法の開発	関沢 明彦	産婦人科	1,100,000	補委 日本学術振興会
喘息患者における広域周波オシレーション法での呼吸抵抗に基づいた新規治療法の探求	宮田 祐人	呼吸器・アレルギー内科	500,000	補委 日本学術振興会
アスピリン抵抗性の遺伝学的解析による妊娠高血圧腎症の病態解明と予防・治療開発	金子 真由美	産婦人科	2,100,000	補委 日本学術振興会
IL-34のM2マクロファージを介した喘息病態における役割の解明	江波戸 貴哉	呼吸器・アレルギー内科	1,200,000	補委 日本学術振興会
音声解析AIを用いた認知機能評価アプリケーションの開発と有用性の検証	黒田 岳志	脳神経内科	1,500,000	補委 日本学術振興会
経口免疫療法の舌下併用ランダム化比較試験と評価指標として抗原結合親和性の探索	今井 孝成	小児科	900,000	補委 日本学術振興会
肝線維化治療に特化した新たな中鎖脂肪酸療法の確立	坂木 理	消化器内科	1,000,000	補委 日本学術振興会
終末糖化産物測定による新たな食道癌手術侵襲評価マーカーの開発	山下 剛史	食道がんセンター	500,000	補委 日本学術振興会
仮想現実映像を応用した革新敵がん緩和ケア療法による未来医療の開発	山上 裕機	消化器・一般外科	1,500,000	補委 日本学術振興会
膀胱癌に対する免疫抑制機構克服を目指した2方向性テラーメード免疫療法の開発	山上 裕機	消化器・一般外科	6,900,000	補委 日本学術振興会
外因性の終末糖化産物による動脈硬化の分子機構の解明と機能性核酸医薬によるその阻止	寺崎 道重	糖尿病・代謝・内分泌内科	1,000,000	補委 日本学術振興会
関節液由来線維芽細胞の免疫表現型解析による関節リウマチの病態解明への挑戦	若林 邦伸	リウマチ・膠原病内科	1,200,000	補委 日本学術振興会
好酸球性鼻副鼻腔炎の難治化におけるIL-4R α を介したType2炎症過剰亢進機序の解明	洲崎 勲夫	耳鼻咽喉科頭頸部外科	900,000	補委 日本学術振興会
ステロイド誘発性満月様顔貌の定量にトラスネン素を用いたその解明と管理	小黒 奈緒	リウマチ・膠原病内科	2,800,000	補 日本学術振興会

ひるぎまぎせへいれへんけつしじほ ツールの開発				委	
人工膝関節置換術後の早期ペインクリ ニック介入による慢性疼痛予防	小林 玲音	麻酔科	500,000	補 委	日本学術振興会
化学療法誘因性末梢神経障害への冷 却療法に対する血流スコープ評価と新 規治療法の開発	松井 祐輝	泌尿器科	700,000	補 委	日本学術振興会
肝腫瘍に対する肝表層血管構造のAI 診断に基づくリアルタイム解析システ ムの開発	松田 和広	消化器・一般外科	700,000	補 委	日本学術振興会
ブランク内出血とハプトグロビン遺伝子 多型から見た新たな冠動脈イベント予 防戦略	松本 英成	循環器内科	500,000	補 委	日本学術振興会
HPVワクチン接種後の血清抗体：発症 予防抗体価と持続期間の検討	松本 光司	産婦人科	900,000	補 委	日本学術振興会
再発性下気道感染症のデータベース 構築と抗緑膿菌活性をもつ抗菌薬の 有効性の検討	城下 彰宏	リウマチ・膠原病内科	400,000	補 委	日本学術振興会
新規冠微小循環定量法による左室機 能保持心不全患者に対する監視下運 動療法効果の解明	新家 俊郎	循環器内科	800,000	補 委	日本学術振興会
認知症に対する非薬物療法の効果を 可視化する評価方法の探索	森 友紀子	脳神経内科	500,000	補 委	日本学術振興会
食事由来の終末糖化産物が造精機能 障害を惹起する分子機序の解明と治 療法の開発	森 雄作	糖尿病・代謝・内分泌内科	900,000	補 委	日本学術振興会
転倒から急性疾病を見抜く救急外来向 けチェックリストの開発と検証：AI応用 への挑戦	垂水 庸子	救急診療科	1,200,000	補 委	日本学術振興会
乳癌術前化学療法後の腫瘍修復を標 的とした新規手術・診断システムの開 発	垂野 香苗	乳腺外科	1,200,000	補 委	日本学術振興会
高齢者の手術リスクを可視化する：合 併症予測モデルを基軸とした最適な術 式選択	石川 紘司	整形外科	1,200,000	補 委	日本学術振興会
微小環境におけるイソ酪酸の癌免疫 応答作用機序の解明	村山 正和	耳鼻咽喉科頭頸部外科	1,300,000	補 委	日本学術振興会
免疫療法不応の克服に向けた可溶性 免疫チェックポイントの解析及び脾臓 癌治療への応用	大熊 遼太郎	腫瘍内科	1,300,000	補 委	日本学術振興会
終末糖化産物を標的としたフレイルに 対する包括的な治療手段の開発	大坂 直也	糖尿病・代謝・内分泌内科	700,000	補 委	日本学術振興会
慢性蕁麻疹におけるSTAP-2の脱顆 粒制御機構の解明	猪又 直子	皮膚科	900,000	補 委	日本学術振興会
ゲノム異常を用いた子宮体癌のリンパ 節転移術を術前に予測する機械学習 モデルの構築	朝見 友香	産婦人科	300,000	補 委	日本学術振興会
ヒトミルクオリゴ糖の母乳細菌叢形成 における役割と濃度調節機構の解明	田中 未央里	小児科	1,200,000	補 委	日本学術振興会
神経ペプチドPACAPの熱中症による全 身および神経炎症抑制機構の解明	土肥 謙二	救命救急科	2,400,000	補 委	日本学術振興会
3Dプリンティングによる動脈管ステント 留置最適化アルゴリズムの構築	藤井 隆成	小児循環器内科	700,000	補 委	日本学術振興会
fNIRSを用いた早産児の学齢期の前頭 葉機能に関する研究	日隈 のどか	小児科	1,400,000	補 委	日本学術振興会
動物性タンパク質による糖尿病性腎症 の増悪機構解明と機能性核酸医薬を 用いた治療	八島 広典	糖尿病・代謝・内分泌内科	1,100,000	補 委	日本学術振興会
髄鞘を標識した遺伝子改変メダカを用 いた骨折治癒過程における髄鞘の動 態解明	百々 悠介	整形外科	900,000	補 委	日本学術振興会

解剖誤認根絶を目指した外科医の認識をサポートする新規AIシステムの開発	富岡 幸大	消化器・一般外科	1,400,000	補委	日本学術振興会
脾切除後脾液瘻克服を目的とした、腸内・脾内細菌叢の網羅的解析	平井 隆仁	消化器・一般外科	1,200,000	補委	日本学術振興会
Th17細胞のPD-1受容体結合率及びポドプラニン発現と臨床アウトカムの相関解析	平澤 優弥	腫瘍内科	1,200,000	補委	日本学術振興会
新MRI解析方法NODDIを活用した全脳照射後における認知機能低下の原因探索	豊福 康介	放射線治療科	1,100,000	補委	日本学術振興会
鶏卵のFPIES(food protein-induced enterocolitis)の自然歴とバイオマーカーの探索	本多 愛子	小児科	2,100,000	補委	日本学術振興会
心臓リハビリテーションによるトリグリセリド代謝を介した抗動脈硬化作用機序の解明	木庭 新治	循環器内科	600,000	補委	日本学術振興会
RA診療の質指標の新たな挑戦: QI-PXギャップ評価と臨床監査介入で診療の改善を目指す	矢嶋 宣幸	リウマチ・膠原病内科	4,700,000	補委	日本学術振興会
SLEの遺伝情報を含む診断時コホート構築-個別医療を目指した機械学習とクラスター解析	柳井 亮	リウマチ・膠原病内科	100,000	補委	日本学術振興会
シングルセル解析を用いた全身性強皮症新規標的分子の解析	雷 小峰	皮膚科	700,000	補委	日本学術振興会
原発乳癌リンパ節転移陽性患者における術前化学療法後腋窩郭清省略の多施設共同研究	林 直輝	乳腺外科	300,000	補委	日本学術振興会
熱中症における熱産生調節機構の解明と予防戦略の確立	鈴木 恵輔	救命救急科	1,100,000	補委	日本学術振興会
尿毒症環境下におけるマグネシウムとカルシウム代謝の石灰化と骨量への影響	齋藤 友広	腎臓内科	1,100,000	補委	日本学術振興会
非造影MRIによる先天性心疾患患者のリンパ管の形態評価に関する研究	齊藤 真理子	小児循環器内科	900,000	補委	日本学術振興会
HPVワクチン接種プログラムによるHPV型別予防効果のモニタリングとワクチン抗体価の評価に関する疫学研究	松本 光司	産婦人科	11,050,000	補委	日本医療研究開発機構 (AMED)
卵黄食物蛋白誘発胃腸炎 (FPIES) 重症化予防のための管理方法の確立	今井 孝成	小児科	585,000	補委	日本医療研究開発機構 (AMED)
細胞およびマウスモデルを用いた RhoBTB2関連神経発達症の分子病態解明と疾患概念の確立	加藤 光広	小児科	1,950,000	補委	日本医療研究開発機構 (AMED)
局所切除後の基底部癌性がんが同クスク下部直腸粘膜下層浸潤癌 (pT1癌) に対するカペシタビン併用放射線療法の前向き検証的試験 (ICOG1612)	伊藤 芳紀	放射線科	260,000	補委	日本医療研究開発機構 (AMED)
小児用医療機器開発を推進する環境整備に関する研究	藤井 隆成	小児循環器内科	7,631,000	補委	日本医療研究開発機構 (AMED)
直腸癌局所再発に対する標準治療確立のための研究開発	伊藤 芳紀	放射線科	390,000	補委	日本医療研究開発機構 (AMED)
術前化学療法後に手術が施行された局所進行食道がんに対する、最適な術後治療の開発を目指す研究: ICOC2206 (SUNRISE Trial)	大塚 耕司	食道がんセンター	390,000	補委	日本医療研究開発機構 (AMED)
下部直腸癌に対するtotal neoadjuvant therapy (TNT) および watch and wait strategyの第II/III相単群検証的試験	伊藤 芳紀	放射線科	390,000	補委	日本医療研究開発機構 (AMED)
早期非小細胞肺癌に対する体幹部定位放射線治療線量増加ランダム化比較試験	伊藤 芳紀	放射線科	195,000	補委	日本医療研究開発機構 (AMED)
高齢者初発膠芽腫に対する分子分類に応じたテモゾロミド併用寡分割放射線治療の最適化に関する研究開発	伊藤 芳紀	放射線科	260,000	補委	日本医療研究開発機構 (AMED)
加齢に伴う血管老化にともなう動脈硬化性心血管疾患の二次・三次予防に資する	木庭 新治	循環器内科	780,000	補	日本医療研究開発機構 (AMED)

ヘルスケアサービスの指針策定およびシステム開発に関する研究				委	
慢性腎臓病ハイリスク児スクリーニング手法の開発	宮沢 篤生	小児科	1,300,000	補委	日本医療研究開発機構 (AMED)
小児用医療機器実用化のための非臨床評価系構築に資する臨床データの利活用に関する研究	富田 英	小児科	1,300,000	補委	日本医療研究開発機構 (AMED)
HTLV-1水平感染の動向と検査法・検査体制の整備	関沢 明彦	産婦人科	650,000	補委	日本医療研究開発機構 (AMED)
ヒノキ科花粉症に対する次世代アレルゲン免疫療法の開発	平野 康次郎	耳鼻咽喉科	650,000	補委	日本医療研究開発機構 (AMED)
高齢卵巣がん患者に最適な治療選択を行うための開発研究	長島 稔	産婦人科	0	補委	日本医療研究開発機構 (AMED)
鏡視下子宮全摘術における手術支援プログラムのアップデートと米国展開に関する研究	竹中 慎	産婦人科	3,000,000	補委	日本医療研究開発機構 (AMED)
成人の食物アレルギー診療の確立に資する研究体制構築を目指す研究	鈴木 慎太郎	呼吸器・アレルギー内科	代表者一括計上	補委	厚生労働省
学校・保育所等におけるアレルギー疾患を有するこどもの安心・安全・生き生きとした活動を保証する生活管理指導表の運用・管理体制向上をめざす研究	今井 孝成	小児科	1,000,000	補委	厚生労働省
稀少てんかんの診療指針と包括医療の研究	加藤 光広	小児科	1,500,000	補委	厚生労働省
好酸球性副鼻腔炎のQOL調査とQOLに基づいた治療ゴールの設定	平野 康次郎	耳鼻咽喉科	0	補委	厚生労働省
難病の克服に向けた研究推進と医療向上を図るための戦略的統括研究	加藤 光広	小児科	600,000	補委	厚生労働省
地理情報システムおよび分娩取扱施設データベースを利用した、基幹施設の重点化・集約化により持続可能な地域周産期医療体制構築を目指す政策研究	関沢 明彦	産婦人科	75,000	補委	厚生労働省
移行期成人期における食物アレルギー診療の確立に資する研究	今井 孝成	小児科	代表者一括計上	補委	厚生労働省
ドナーミルクを必要とする児に普及するために必要なエビデンスを構築するための研究	水野 克己	小児科	6,440,000	補委	こども家庭庁
社会状況等を踏まえた、適切な妊産婦健康診査の検討に質する研究	関沢 明彦	産婦人科	5,099,000	補委	こども家庭庁
社会状況等を踏まえた、適切な妊産婦健康診査の検討に質する研究	小出 馨子	産婦人科	100,000	補委	こども家庭庁
社会状況等を踏まえた、適切な妊産婦健康診査の検討に質する研究	向井 勇貴	産婦人科	100,000	補委	こども家庭庁
社会状況等を踏まえた、適切な妊産婦健康診査の検討に質する研究	牧野 弘毅	産婦人科	100,000	補委	こども家庭庁
出生前検査に関する情報提供体制、遺伝カウンセリング体制、支援体制の構築のための研究	関沢 明彦	産婦人科	代表者一括計上	補委	こども家庭庁
HTLV-1キャリア妊産婦の支援体制の構築に関する研究	関沢 明彦	産婦人科	200,000	補委	こども家庭庁
HTLV-1キャリア妊産婦の支援体制の構築に関する研究	宮沢 篤生	小児科	200,000	補委	こども家庭庁
出生前検査に関する情報提供体制、遺伝カウンセリング体制、支援体制の構築のための研究	小出 馨子	産婦人科	代表者一括計上	補委	こども家庭庁
HTLV-1キャリア妊産婦の支援体制の構築に関する研究	小出 馨子	産婦人科	200,000	補委	こども家庭庁

出生前検査に関する情報提供体制、 遺伝カウンセリング体制、支援体制の 構築のための研究	白土 なほ子	産婦人科	500,000	補 委	こども家庭庁
栄養障害、サルコペニアの発症進展に 関わるエピゲノム以上異常の解析	内田 嘉隆	腎臓内科	1,000,000	補 委	日本ヘルスケア協会

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1) 高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1					Original Article
2		別紙のとおり			Case report
3					Review
4					Letter
5					Others
6					
～					
70					
～					

計156件

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)

3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。

4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。

5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること

(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。

記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)

6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2) 高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1					Original Article
2					Case report
3					
～					

計 件

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

2 論文発表等の実績

(別紙)

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの対象となる論文

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
1	Fukuda Yosuke, Oda Naruhito, Mitsunari Takuya, et al.	呼吸器・アレルギー内科	Adult Asthma Diagnosis Based on the Japanese Practical Guideline: A Diagnostic Test Accuracy Study	Clin Exp Allergy. 2025 Jul;55(7):571–573. (オンライン)	Journal Article
2	Fukuda Yosuke, Uchida Yoshitaka, Ando Koichi, et al.	呼吸器・アレルギー内科	Risk factors for interstitial lung disease in patients with non-small cell lung cancer with epidermal growth factor receptor-tyrosine kinase inhibitors: A systematic review and meta-analysis	Respir Investig. 2024 May;62(3):481–487.	Journal Article
3	Miyata Yoshito, Tanaka Akihiko, Ebato Takaya, et al.	呼吸器・アレルギー内科	Baseline forced oscillation technique predicting lack of exacerbations in adult patients with asthma: A 12-month prospective	Ann Allergy Asthma Immunol. 2025 Feb;134(2):183–189.	Journal Article
4	Tanaka Akihiko, Wakayama Katsuki, Fukuda Yosuke, et al.	呼吸器・アレルギー内科	Increased levels of circulating cell-free DNA in COVID-19 patients with respiratory failure	Sci Rep. 2024 Jul 29;14(1):17399. (オンライン)	Journal Article
5	Tsukii Reona, Tsukii Reona, Inoki Kazuya, et al.	消化器内科	Transvaginal flexible endoscopy for bleeding arteriovenous malformation hemostasis near a vesico-rectovaginal fistula	VideoGIE. 2025 Feb 21;10(6):323–325. (オンライン)	Journal Article
6	Uchikoshi Manabu, Ito Takayoshi, Nakajima Yoko, et al.	消化器内科	Simultaneous gastric, pancreatic, and renal metastasis from poorly differentiated hepatocellular carcinoma	Clin J Gastroenterol. 2024 Jun;17(3):497–504.	Case Report
7	Kusano Tomokazu, Aoki Takeshi, Saito Kazuhiko, et al.	消化器・一般外科	An initial report of robotic-assisted anatomical liver resection with indocyanine green fluorescence navigation using the ultrasound-guided preoperative positive staining technique	Asian J Endosc Surg. 2024 Oct;17(4):e13381. doi: 10.1111/ases.13381. (オンライン)	Case Report
8	Matsune Yusuke, Aoki Takeshi, Tashiro Yoshihiko	消化器・一般外科	Diaphragmatic and pericardial reconstruction using a Gore-Tex® patch in a patient with an invasive liver malignancy	Clin J Gastroenterol. 2024 Oct;17(5):943–947.	Case Report
9	Sasamoto Suguru, Aoki Takeshi, Tashiro Yoshihiko, et al.	消化器・一般外科	Ex Vivo Endocytoscopic Evaluation of Pancreatobiliary Cancers: A Step Toward Real-time In Vivo Diagnosis	Anticancer Res. 2025 Feb;45(2):761–771.	Journal Article
10	Tashiro Yoshihiko, Aoki Takeshi, Kobayashi Nao, et al.	消化器・一般外科	Novel navigation for laparoscopic cholecystectomy fusing artificial intelligence and indocyanine green fluorescent imaging	J Hepatobiliary Pancreat Sci. 2024 May;31(5):305–307.	Journal Article
11	Tashiro Yoshihiko, Aoki Takeshi, Yasunaga Hidekazu, et al.	消化器・一般外科	Indocyanine green dyed gauze-guided minimum invasive surgery for anatomical landmarks and preventing gauze remnants: a pilot study	Langenbecks Arch Surg. 2025 Jan 15;410(1):40. (オンライン)	Journal Article
12	Yamazaki Kimiyasu, Date Hiromi, Watanabe Ryohei, et al.	消化器・一般外科	Fluorescence microscopy findings of indocyanine green fluorescence localization at the tumor marking site in laparoscopic surgery for gastric cancer	J Gastrointest Surg. 2024 Jun;28(6):933–935.	Case Report
13	Yamazaki Kimiyasu, Mochizuki Kiyotaka, Date Hiromi, et al.	消化器・一般外科	Safe and Accurate Laparoscopic Total Gastrectomy for Remnant Gastric Cancer With Severe Adhesions Using Indocyanine Green Fluorescence Imaging: Guidance in Detection of the Accurate Dissection Layer to Avoid Organ Injury	Am Surg. 2024 Jun;90(6):1794–1796.	Case Report
14	Arai Shuhei, Asano Taku, Nakamura Yuya, et al.	循環器内科	A rare case of adenosine-sensitive atrial tachycardia originating at the mitral annulus's anterior septum	HeartRhythm Case Rep. 2024 May 14;10(8):533–536. (オンライン)	Case Report
15	Arai Shuhei, Asano Taku, Takai Yuki, et al.	循環器内科	Unusual left-sided variant orientation of the slow conduction zone in adenosine-sensitive atrial tachycardia	J Arrhythm. 2025 Feb 7;41(1):e70015. (オンライン)	Journal Article
16	Higuchi Satoshi, Matsumoto Hidenari, Masaki Ryota, et al.	循環器内科	Impact of multiple comorbidities on long-term mortality in older patients following transcatheter aortic valve replacement	Heliyon. 2024 Aug 23;10(17):e36724. (オンライン)	Journal Article
17	Ichikawa Saaya, Mochizuki Yasuhide, Miyazaki Haruka, et al.	循環器内科	Dramatic changes before and after anticoagulation for giant thrombus in the left ventricle complicated by nonischemic cardiomyopathy	J Echocardiogr. 2024 Jun;22(2):102–103.	Case Report
18	Ichikawa-Ogura Saaya, Mochizuki Yasuhide, Toyosaki Eiji, et al.	循環器内科	Rapidly progressive mitral valve disease from non-bacterial thrombotic endocarditis to mitral stenosis in systemic lupus erythematosus: a case report	Eur Heart J Case Rep. 2025 Feb 25;9(3):ytaf098. (オンライン)	Case Report
19	Koba Shinji, Satoh Noriyuki, Ito Yasuki, et al.	循環器内科	Impact of Direct Measurement of Small Dense Low-Density Lipoprotein Cholesterol for Long-Term Secondary Prevention in Patients with Stable Coronary Artery Disease	Clin Chem. 2024 Jul 5;70(7):957–966.	Journal Article
20	Kosaki Ryota, Mochizuki Yasuhide, et al.	循環器内科	Successful transcatheter edge-to-edge repair for atrial functional mitral regurgitation after surgical annuloplasty ring dehiscence: a case report	Eur Heart J Case Rep. 2024 Aug 6;8(8):ytae396. (オンライン)	Case Report
21	Mochizuki Yasuhide, Kuroki Yui, Shibakai	循環器内科	The five times sit-to-stand test predicts achievable exercise intensity during stress echocardiography	Eur Heart J Imaging Methods Pract. 2025 Mar 13;3(1):qyaf030. (オンライン)	Journal Article

22	Nakamura Yuya, Kai Yosuke, Ueno Rimpei, et al.	循環器内科	Snare-in-snare technique: An innovative method for leadless pacemaker retrieval	HeartRhythm Case Rep. 2025 Mar 20;11(6):543–546. (オンライン)	Case Report
23	Nakazawa Motoki, Matsumoto Hidenari, Li Debiao, et al.	循環器内科	Rapid three-dimensional quantification of high-intensity plaques from coronary atherosclerosis T(1)-weighted characterization to predict periprocedural myocardial injury	J Cardiovasc Magn Reson. 2024 Summer;26(1):100999. (オンライン)	Journal Article
24	Onishi Yoshimi, Asano Taku, Arai Shuhei, et al.	循環器内科	Hydrodissection for pericardial adhesion in percutaneous epicardial ventricular tachycardia ablation	J Arrhythm. 2024 Oct 10;40(6):1514–1518. (オンライン)	Journal Article
25	Onishi Yoshimi, Barengo Alberto, Fioravanti Francesco, et al.	循環器内科	His-bundle pacing from the right atrium: Solving pacemaker implantation challenges post-TriClip	J Cardiovasc Electrophysiol. 2024 Nov;35(11):2258–2261.	Case Report
26	Onishi Yoshimi, Inokuchi Koichiro, Arai Shuhei, et al.	循環器内科	Visualization of Mechanisms for Myocardium-Originating Premature Ventricular Contractions With Narrow QRS Via His-Purkinje System	JACC Clin Electrophysiol. 2025 Jan;11(1):244–250.	Journal Article
27	Sakai Koshiro, Shin Doosup, Singh Mandeep, et al.	循環器内科	Diagnostic Performance and Clinical Impact of Photon-Counting Detector Computed Tomography in Coronary Artery Disease	J Am Coll Cardiol. 2025 Feb 4;85(4):339–348.	Journal Article
28	Sakai Koshiro, Storozhenko Tatyana, Mizukami Takuya, et al.	循環器内科	Impact of vessel volume on thermodilution measurements in patients with coronary microvascular dysfunction	Catheter Cardiovasc Interv. 2024 May;103(6):885–896.	Journal Article
29	Sekimoto Teruo, Mori Hiroyoshi, Koba Shinji, et al.	循環器内科	Assessment of Residual Vasospasm in Patients with Plaque Rupture or Plaque Erosion using Optical Coherence Tomography	J Atheroscler Thromb. 2024 May 1;31(5):559–571. (オンライン)	Journal Article
30	Toyoshima Daiki, Mochizuki Yasuhide, Handa Satoru, et al.	循環器内科	Acute Heart Failure Caused by Rupture of Sinus of Valsalva Into Right Atrium in a Patient With Possible Infective Endocarditis After Tricuspid Annuloplasty: A Misdirected Clinical Decision-Making	Circ Heart Fail. 2024 Dec;17(12):e011600. (オンライン)	Journal Article
31	Toyoshima Daiki, Mochizuki Yasuhide, Tomita Hideshi, et al.	循環器内科	Unprecedented hypoxaemia caused by ventricular septal aneurysm protruding into left ventricular outflow tract in an adult with congenitally corrected transposition of the great arteries	Eur Heart J Case Rep. 2024 May 21;8(5):ytac260. (オンライン)	Case Report
32	Yamamoto Yumi, Mochizuki Yasuhide, Oda Shota, et al.	循環器内科	Iatrogenic aortocoronary arteriovenous fistula after coronary artery bypass grafting detected with transthoracic echocardiography	J Med Ultrason (2001). 2024 Oct;51(4):671–672.	Journal Article
33	Yokoe Miku, Higuchi Satoshi, Shinke Toshiro, et al.	循環器内科	Comprehensive treatment strategy in a patient with systemic lupus erythematosus-related pulmonary artery hypertension: a case report	Eur Heart J Case Rep. 2024 Nov 15;9(1):ytac611. (オンライン)	Case Report
34	Yokokawa Daisuke, Kuroki Yui, Mochizuki Yasuhide, et al.	循環器内科	Predominant determinants for evaluation of right parasternal approach in transthoracic echocardiography in aortic stenosis: a study based on three-dimensional cardiac computed tomography analysis	Int J Cardiovasc Imaging. 2024 Aug;40(8):1713–1724.	Journal Article
35	Yoshikawa Kosuke, Asano Taku, Onishi Yoshimi, et al.	循環器内科	Combining D-dimer and LDL/HDL ratio to predict the absence of atrial fibrillation in patients with an Implantable Loop Recorder for embolic stroke of Undetermined source	Int J Cardiol Heart Vasc. 2025 Jan 16;56:101611. (オンライン)	Journal Article
36	Masuda Tomoaki, Aoki Atsushi, Omoto Tadashi, et al.	心臓血管外科	Optimal patient selection for maze procedure in patients undergoing mitral valve disease	J Cardiothorac Surg. 2024 Apr 8;19(1):190. (オンライン)	Journal Article
37	Aoyama Rina, Komatsu Masaaki, Harada Naoaki, et al.	産婦人科	Automated Assessment of the Pulmonary Artery-to-Ascending Aorta Ratio in Fetal Cardiac Ultrasound Screening Using Artificial Intelligence	Bioengineering (Basel). 2024 Dec 12;11(12):1256. (オンライン)	Journal Article
38	Chen Linji, Mori Yusaku, Nishii Shogo, et al.	産婦人科	Impact of Oxidative Stress on Sperm Quality in Oligozoospermia and Normozoospermia Males Without Obvious Causes of Infertility	J Clin Med. 2024 Nov 26;13(23):7158. (オンライン)	Journal Article
39	Hashiramoto Shin, Arakaki Tatsuya, Takita Hiroko, et al.	産婦人科	Prenatal diagnosis of the umbilical cord torsion at the placental cord insertion site: A case report and literature review	J Obstet Gynaecol Res. 2024 Sep;50(9):1728–1731. (オンライン)	Case Report
40	Hashiramoto Shin, Kaneko Mayumi, Takita Hiroko, et al.	産婦人科	Factors affecting the accuracy of fetal cardiac ultrasound screening in the first trimester of pregnancy	J Med Ultrason (2001). 2025 Jan;52(1):131–138.	Journal Article
41	Mizutani Akane, Nagashima Minoru, Ohira Yasuyuki, et al.	産婦人科	Successful laparoscopic resection of retroperitoneal ectopic pregnancy between the abdominal aorta and inferior vena cava: A case report	J Obstet Gynaecol Res. 2024 Jul;50(7):1253–1257. (オンライン)	Case Report
42	Okuyama Ayumi, Hasegawa Junichi, Seo Kohei, et al.	産婦人科	Assessment of Uterine Contraction and Atonic Bleeding during the Third Stage of Labor Using Shear Wave Elastography	Diagnostics (Basel). 2024 Jul 11;14(14):1490. (オンライン)	Journal Article
43	Shirato Nahoko, Sekizawa Akihiko, Miyagami, Keiko, et al.	産婦人科	Impact of the new government-involved noninvasive prenatal testing certification system on the awareness of pregnant women about noninvasive prenatal testing in Japan	J Obstet Gynaecol Res. 2024 Sep;50(9):1542–1551. (オンライン)	Journal Article
44	Yoshiizumi Eri, Onuki Mamiko, Kukimoto Iwao, et al.	産婦人科	Declining Prevalence of Human Papillomavirus Co-Infections Among Young Japanese Women With Cervical Cancer and Its Precursors	J Med Virol. 2024 Dec;96(12):e70096.	Journal Article
45	Adachi Masanori, Fujii Takanari, Ochi Ayako, et al.	小児科	Complex equilibrium involving aldosterone underlies the pathophysiology of renovascular hypertension	Clin Pediatr Endocrinol. 2025 Jan;34(1):19–26. (オンライン)	Journal Article
46	Honda Aiko, Imai Takanori, Okada Yuki, et al.	小児科	Severe anaphylaxis requiring continuous adrenaline infusion during oral food challenge: A case series	Ann Allergy Asthma Immunol. 2024 Nov;133(5):606–608.	Journal Article

47	Kunigami Chihiro, Imai Takanori, Yamashita Kosei, et al.	小児科	Procalcitonin level after positive food protein-induced enterocolitis syndrome (FPIES) oral food challenge predicts short-term tolerance	J Allergy Clin Immunol Pract. 2024 Jul;12(7):1937–1939.e1.	Journal Article
48	Miyazawa Tokuo, Shirai Madoka, Noguchi Yutaro, et al.	小児科	Zinc Concentration in Breast Milk Is Inversely Correlated with the Zinc Supplementation Requirements of Preterm Infants	Nutrients. 2025 Feb 28;17(5):840. (オンライン)	Journal Article
49	Motegi Sakura, Adachi Masanori, Nagahara Keiko, et al.	小児科	Multifaceted delineation of atrophic thyroiditis among pediatric population: An extensive literature survey	Clin Pediatr Endocrinol. 2025 Jan;34(1):27–35. (オンライン)	Journal Article
50	Nakamura Toshinori, Nakano Taiji, Simpson Angela, et al.	小児科	Trajectories of egg sensitization in childhood: Two birth cohorts in Asia and Europe	Allergy. 2025 Jan;80(1):193–204.	Journal Article
51	Yamashita Kosei, Mayu Maeda, Imai Takanori, et al.	小児科	Efficacy of very-low-dose oral food challenge in children with severe hen egg allergy: A retrospective, single-center case series	Allergol Int. 2024 Oct;73(4):543–549.	Journal Article
52	Sato Hideaki, Adachi Sei, Tominaga Miri, et al.	小児外科	Comparison of pain between laparoscopic percutaneous extraperitoneal closure (LPEC) and open procedure for inguinal hernias in children below 5 years of age	Pediatr Surg Int. 2024 Nov 7;40(1):294. (オンライン)	Journal Article
53	Aiura Ryo, Matsuda Yoshikazu, Matsumoto Tomoya, et al.	脳神経外科	A case of de novo extra-stent ulceration induced by persistent plaque protrusion after carotid artery stenting with a CASPER stent for a large-volume unstable plaque	Radiol Case Rep. 2024 Sep 23;19(12):6187–6192. (オンライン)	Case Report
54	Arai Shintaro, Shimizu Katsuyoshi, Matsumoto Masahito, et al.	脳神経外科	Surgical treatment of hemifacial spasm caused by fusiform vertebral artery aneurysm: case report and literature review	Br J Neurosurg. 2024 Dec;38(6):1426–1428.	Case Report
55	Arai Shintaro, Sugiyama Tatsuya, Mizutani Tohru, et al.	脳神経外科	A Unique and Effective Bypass Technique to Treat Partially Thrombosed Giant Distal Anterior Cerebral Artery Aneurysms in Extremely Narrow Surgical Corridors	World Neurosurg. 2024 Oct;190:278–283.	Case Report
56	Natori Ikuya, Tanioka Daisuke, Kobayashi Yusuke, et al.	脳神経外科	Histiocytic sarcoma of the suprasellar region: illustrative case	J Neurosurg Case Lessons. 2025 Mar 24;9(12):CASE24297. (オンライン)	Journal Article
57	Okabe Junya, Sato Yosuke	脳神経外科	Effectiveness of perampanel for focal seizures determined by interictal gamma oscillation regularity analysis	Epilepsia Open. 2024 Oct;9(5):1968–1971. (オンライン)	Journal Article
58	Miyamoto Kazuyuki, Sakakibara Mako, Yamaga Hiroki, et al.	救急災害医学	Abdominal aortic injury caused by a sharp osteophyte displaced by a compression fracture: A case report and literature review	Heliyon. 2024 Aug 8;10(16):e35994. (オンライン)	Case Report
59	Suzuki Keisuke, Hirose Daiki, Tomita Yoshitaka, et al.	救急災害医学	Life-Threatening Retroperitoneal Hemorrhage Caused by Lower Rib Fractures: A Case Report on Successful Management With Transcatheter Arterial Embolization	Cureus. 2025 Feb 14;17(2):e78992. (オンライン)	Case Report
60	Suzuki Keisuke, Nishihara Shigetoshi, Sakakibara, Mako, et al.	救急災害医学	Prostate Abscess Associated With Severe Constipation: A Rare Case	Cureus. 2025 Mar 11;17(3):e80395. doi: 10.7759/cureus.80395. (オンライン)	Case Report
61	Suzuki Keisuke, Kai Ryoza, Hirano Takaho, et al.	救急災害医学	Bronchial arterial embolization for an unruptured bronchial artery aneurysm in patient with hemoptysis	Intern Emerg Med. 2024 Oct;19(7):2079–2080. (オンライン)	Case Report
62	Tomita Yoshitaka, Suzuki Keisuke, Kaizaki-Mitsumoto Asuka, et al.	救急災害医学	Jesaconitine monitoring in a case of severe aconitum poisoning with torsade de pointes treated via extracorporeal membrane oxygenation	Acute Med Surg. 2025 Feb 20;12(1):e70047. (オンライン)	Journal Article
63	Yanagisawa Kaoru, Miyamoto Kazuyuki, Wakayama Yoshihiro, et al.	救急災害医学	Exacerbation of Hepatic Damage in Endothelial Aquaporin 1 Transgenic Mice after Experimental Heatstroke	Biomedicines. 2024 Sep 10;12(9):2057. (オンライン)	Journal Article
64	Mori Yusaku, Terasaki Michishige, Osaka Naoya, et al.	糖尿病・代謝・内分泌内科	DNA Aptamer Raised against Advanced Glycation End Products Improves Sperm Concentration, Motility, and Viability by Suppressing Receptors for Advanced Glycation End Product-Induced Oxidative Stress and Inflammation in the Testes of Diabetic Mice	Int J Mol Sci. 2024 May 29;25(11):5947. (オンライン)	Journal Article
65	Terasaki Michishige, Yashima Hironori, Mori Yusaku, et al.	糖尿病・代謝・内分泌内科	Glucose-Dependent Insulinotropic Polypeptide Inhibits AGE-Induced NADPH Oxidase-Derived Oxidative Stress Generation and Foam Cell Formation in Macrophages Partly via AMPK Activation	Int J Mol Sci. 2024 Sep 8;25(17):9724. (オンライン)	Journal Article
66	Akizawa Tadao, Iimura Shigeomi, Kanaya Kyomi, et al.	腎臓内科	Safety of Daprodustat for the Treatment of Chronic Kidney Disease Anemia: An Interim Analysis of a Multicenter Postmarketing Surveillance Study in Japan	Therapeutic Research. 2024.May;45(5):313–333.	Journal Article
67	Kajio Yuki, Suzuki Taihei, Kobayashi Kazuki, et al.	腎臓内科	Activation of the inflammasome and pyroptosis cascade in podocytes of patients with minimal change disease	Clin Kidney J. 2024 Jul 16;17(8):sfae216. (オンライン)	Journal Article
68	Kato Tadashi, Nakatsuka Ryusuke, Zhang Rong, et al.	腎臓内科	The role of glial cells missing 2 in induced pluripotent stem cell parathyroid differentiation	Tissue Cell. 2025 Feb;92:102634. (オンライン)	Journal Article

69	Arai Nana, Narita Hinako, Kuroiwa Kai, et al.	血液内科	Fludarabine Melphalan, Reduced-dose Busulfan Versus Fludarabine, Melphalan, Full-dose Busulfan in Patients Receiving Cord Blood Transplantation	Transplant Proc. 2024 Oct;56(8):1828–1835.	Journal Article
70	Kuroiwa Kai, Sato Misuzu, Narita Hinako, et al.	血液内科	Influence of FOXP3 single-nucleotide polymorphism after allogeneic hematopoietic stem cell transplantation	Int J Hematol. 2024 May;119(5):583–591.	Journal Article
71	Narita Hinako, Kuroiwa Kai, Kawaguchi, Yukiko Aya, et al.	血液内科	High Ki-67 Expression Predicting a Risk Factor for the Progression of Disease within 24 Months and Microenvironment in Follicular Lymphoma	Int J Mol Sci. 2024 Oct 15;25(20):11057. (オンライン)	Journal Article
72	Sasaki Yohei, Murai So, Hayashi Hidenori, et al.	血液内科	Clinicopathological differences in MYC and BCL2 protein expression between primary extranodal and nodal diffuse large B-cell lymphoma	Pathol Res Pract. 2024 Aug;260:155425. (オンライン)	Journal Article
73	Hirasawa Yuya, Kubota Yutaro, Mura Emiko, et al.	腫瘍内科	Maximum Efficacy of Immune Checkpoint Inhibitors Occurs in Esophageal Cancer Patients With a Low Neutrophil-to-Lymphocyte Ratio and Good Performance Status Prior to Treatment	Anticancer Res. 2024 Aug;44(8):3397–3407.	Journal Article
74	Hirasawa Yuya, Kubota Yutaro, Mura Emiko, et al.	腫瘍内科	Chemotherapy combined with immune checkpoint inhibitors may overcome the detrimental effect of high neutrophil-to-lymphocyte ratio prior to treatment in esophageal cancer patients	Front Oncol. 2024 Oct 11;14:1449941. (オンライン)	Journal Article
75	Ishiguro Tomoyuki, Takeda Kazuyuki, Takayanagi Daisuke, et al.	腫瘍内科	Immune Stress-induced Tumor Mutation Burden and Neoantigen Expression in 4T1 Mammary Cancer Cells: A Potential Mechanism for Long-term Survival in Patients Treated With Immune Checkpoint Inhibitors	Cancer Genomics Proteomics. 2025 Jan–Feb;22(1):1–12. (オンライン)	Journal Article
76	Kubota Yutaro, Sasaki Masato, Han Qinghong, et al.	腫瘍内科	Efficacy of Recombinant Methioninase on Late-stage Patient Cancer in the Histoculture Drug Response Assay (HDRA) as a Potential Functional Biomarker of Sensitivity to Methionine-restriction Therapy in the Clinic	Cancer Diagn Progn. 2024 May 3;4(3):239–243. (オンライン)	Review
77	Kubota Yutaro, Varshney Nundini, Kobayashi Keita, et al.	腫瘍内科	Methionine Dependence of Hair Maintenance in C57BL/6 Mice	In Vivo. 2024 May–Jun;38(3):1199–1202. (オンライン)	Journal Article
78	Tsurui Toshiaki, Ariizumi Hirotsugu, Kubota Yutaro, et al.	腫瘍内科	Severe Polymyalgia Rheumatica-Like Syndrome Induced by Immune Checkpoint Inhibitor: A Case Report and Literature Review	Cureus. 2024 Nov 26;16(11):e74474. (オンライン)	Case Report
79	Tsurui Toshiaki, Hamada Kazuyuki, Mura Emiko, et al.	腫瘍内科	Evaluation of patient immunocompetence for immune checkpoint inhibitor therapy using the psoas muscle index: a retrospective cohort study	Front Oncol. 2025 Feb 6;15:1499650. (オンライン)	Journal Article
80	Tsurui Toshiaki, Hosonuma Masahiro, Sasaki Aya, et al.	腫瘍内科	Ki-67 expression in anti-programmed cell death protein-1 antibody-bound CD8(+) T cells as a predictor of clinical benefit	Discov Oncol. 2025 Mar 18;16(1):348. (オンライン)	Journal Article
81	Ata-Shiroshita Arisa, Kuwayama Takashi, Kato Masako, et al.	乳腺外科	Retrospective Analysis of the Clinical Usefulness of a Strut-Adjusted Volume Implant in a Single Center	Eur J Breast Health. 2024 Jul 1;20(3):215–222. (オンライン)	Journal Article
82	Komatsu Nana, Chishima Takashi, Watanabe Chie, et al.	乳腺外科	Development of a novel prediction model for carriage of BRCA1/2 pathogenic variant in Japanese patients with breast cancer based on Japanese organization of hereditary breast and ovarian cancer registry data	Breast Cancer Res Treat. 2025 Jan;209(1):177–188.	Journal Article
83	Nakamura Seigo, Kojima Yasuyuki, Takeuchi Sayoko	乳腺外科	Causative Genes of Homologous Recombination Deficiency (HRD)-Related Breast Cancer and Specific Strategies at Present	Curr Oncol. 2025 Feb 6;32(2):90. (オンライン)	Review
84	Nakayama Sayuka, Yoshizawa Ayuha, Tsurutani Junji, et al.	乳腺外科	Real-world incidence of and risk factors for abemaciclib-induced interstitial lung disease in Japan: a nested case-control study of abemaciclib-induced interstitial lung disease (NOSIDE)	Breast Cancer. 2025 Jan;32(1):177–185.	Journal Article
85	Okuyama Hiromi, Takada Fuka, Taira Naruto, et al.	乳腺外科	A randomized trial of the impact of symptom monitoring using an electronic patient-reported outcome app on health-related quality of life in postmenopausal breast cancer patients receiving adjuvant endocrine therapy	Breast Cancer. 2024 Sep;31(5):787–797.	Journal Article
86	Hayakawa Chikara, Okano Ichiro, Tsuchiya Koki, et al.	整形外科	Upper Thoracic Pyogenic Spondylitis With a Paravertebral Abscess Treated With a Combination of Cranked Minimally Invasive Spinal Instrumentation and Negative Pressure Wound Therapy: A Case Report	Cureus. 2024 Oct 26;16(10):e72455. (オンライン)	Case Report
87	Ishikawa Koji, Tani Soji, Toyone Tomoaki, et al.	整形外科	The potential effect of romosozumab on perioperative management for instrumentation surgery	JOR Spine. 2024 Aug 5;7(3):e1356. (オンライン)	Journal Article
88	Kudo Yoshifumi, Okano Ichiro, Toyone, Tomoaki, et al.	整形外科	Distal junctional failure after corrective surgery without pelvic fixation for thoracolumbar junctional kyphosis due to osteoporotic vertebral fracture	J Orthop Sci. 2024 May;29(3):781–787.	Journal Article
89	Nishi Masanori, Atsumi Takashi, Yoshikawa Yasushi, et al.	整形外科	Long-term outcomes of the mayo conservative hip system in patients aged 30 years or less with osteonecrosis of the femoral head: mean follow-up of more than 10 years	Arch Orthop Trauma Surg. 2024 Jun;144(6):2823–2830.	Journal Article
90	Nishi Masanori, Atsumi Takashi, Yoshikawa Yasushi, et al.	整形外科	Residual deformity after femoral neck fracture affects the location of osteonecrosis of the femoral head	Bone Jt Open. 2024 May 15;5(5):394–400. (オンライン)	Journal Article
91	Nishi Masanori, Yoshikawa Yasushi, Okano Ichiro, et al.	整形外科	Long-Term Outcomes of Cementless Bipolar Hemiarthroplasty in Young Patients With Osteonecrosis of the Femoral Head: The Impact of Implant Improvements and Preoperative Stage	Cureus. 2024 Apr 4;16(4):e57633. (オンライン)	Journal Article

92	Ogawa Joji, Dodo, Yusuke, Komuro Yoshihisa, et al.	整形外科	Minimally Invasive Treatment for Thoracolumbar Burst Fracture Using Sagittal Alignment Screws and A Trauma Reduction Device	J Vis Exp. 2024 Nov 8;(213). (オンライン)	Others
93	Tsuchiya Koki, Okano Ichiro, Dodo Yusuke, et al.	整形外科	Postoperative decrease in Hounsfield unit values at adjacent vertebrae after thoraco-pelvic fusion as a risk factor of proximal junctional kyphosis	J Orthop Res. 2024 Nov;42(11):2575–2581.	Journal Article
94	Tsuchiya Koki, Okano Ichiro, Kobayashi Reon, et al.	整形外科	Quantitative Assessment of Intervertebral Disc Degeneration Using the Disc Signal Intensity Index in Patients With Spine-Related Pain	Cureus. 2024 Jul 1;16(7):e63553. (オンライン)	Journal Article
95	Tsuchiya Koki, Oshita Yusuke, Emori Haruka, et al.	整形外科	Bone turnover markers as predictors of hypocalcemia in patients with bone metastases receiving denosumab	JBMR Plus. 2025 Jan 21;9(4):zif013. (オンライン)	Journal Article
96	Yasukawa Taiki, Lee Sang Yang, Hasegawa Hiro, et al.	整形外科	Successful treatment of atypical femoral fracture with autogenous bone grafting in a patient on denosumab for bone metastasis from breast cancer: A case report	Trauma Case Rep. 2024 Apr 1;51:101005. (オンライン)	Case Report
97	Kasai Fumihito, Kasai Fumihito, Unoki Takeshi	リハビリテーション科	Author's response to the letter "Japanese clinical practice guidelines for rehabilitation in critically ill patients 2023 (J-ReCIP 2023)"	J Intensive Care. 2024 Sep 26;12(1):36. (オンライン)	Letter
98	Kasai Fumihito, Kobayashi Takahisa, Hoshi Eriko, et al.	リハビリテーション科	Does Prehabilitation Reduce Postoperative Length of Hospital Stay after Esophageal Cancer Surgery?	Prog Rehabil Med. 2024 Apr 10;9:20240013. (オンライン)	Journal Article
99	Mochizuki Midori, Okumo Takayuki, Takemura Haruka, et al.	リハビリテーション科	Suppressive Activity of Boiogito, a Japanese Traditional Kampo Medicine, on Periostin Secretion in Human Fibroblast-Like Synoviocytes In Vitro	Cureus. 2024 Apr 5;16(4):e57690. (オンライン)	Journal Article
100	Nagai Takashi, Ishikawa Koji, Tsuchiya Koki, et al.	リハビリテーション科	Changes in Testing and Treatment Methods in Osteoporosis Care	J Osteoporos. 2024 Apr 17;2024:9629891. (オンライン)	Journal Article
101	Sugiyama Tomoko, Hashimoto Keiji, Kawate Nobuyuki	リハビリテーション科	Information and Communication Technology-based Assessment for Children with Developmental Needs: Kids Brain Balancer	JMA J. 2024 Oct;7(4):543–550. (オンライン)	Journal Article
102	Igaki Ryu, Yasuda Tomohiro, Samejima Yuki, et al.	形成外科	Ipsilateral supracondylar humerus fracture and Monteggia fracture–dislocation with distal radius physeal fracture in a pediatric patient: A case report	Trauma Case Rep. 2025 Feb 27;56:101151. (オンライン)	Case Report
103	Hirano K, Suzuki I, Okuzawa, N, et al.	耳鼻咽喉科頭頸部外科	Omalizumab reduces allergic rhinitis symptoms due to Japanese cedar pollen by improving eosinophilic inflammation	Rhinology. 2025 Feb 1;63(1):116–117.	Journal Article
104	Murayama Masakazu, Hosonuma Masahiro, Kuramasu Atsuo, et al.	耳鼻咽喉科頭頸部外科	Isobutyric acid enhances the anti-tumour effect of anti-PD-1 antibody	Sci Rep. 2024 May 17;14(1):11325. (オンライン)	Journal Article
105	Suzaki Isao, Maruyama Yuki, Kamimura Sawa, et al.	耳鼻咽喉科頭頸部外科	Residual nasal polyp tissue following dupilumab therapy is associated with periostin-associated fibrosis	Eur Arch Otorhinolaryngol. 2024 Apr;281(4):1807–1817.	Journal Article
106	Suzaki, Isao	耳鼻咽喉科頭頸部外科	The role of macrolides in chronic rhinosinusitis and nasal polyps	Curr Opin Allergy Clin Immunol. 2025 Feb 1;25(1):19–26.	Review
107	Ito Haruka, Yoshimoto Takahiko, Kokaze Akatsuki, et al.	皮膚科	Predictors of cytomegalovirus infection in patients with connective tissue disease treated by pulsed methylprednisolone therapy: a multicenter retrospective cohort study	BMC Infect Dis. 2025 Jan 28;25(1):137. (オンライン)	Journal Article
108	Sueki Hirohiko, Noguchi Kazuteru, Natsumoto Bunki, et al.	皮膚科	Predictive and diagnostic biomarkers for cytomegalovirus infection in patients with rheumatic musculoskeletal diseases treated by high-dose glucocorticoid therapy: multicentre, prospective cohort study	Clin Exp Rheumatol. 2025 Mar;43(3):497–506.	Journal Article
109	Yamaura Maiko, Iwahashi Yuriko, Hashimoto Eri, et al.	皮膚科	A Case of Fish Sausage Anaphylaxis Induced by Epicutaneous Sensitization to Carmine Contained in Eyeshadows: The Effect of Chelation on Carmine Allergy	Case Rep Dermatol Med. 2024 Sep 11;2024:1057957. (オンライン)	Case Report
110	Matsui Yuki, Kishi Hirotaka, Matsui Chihiro, et al.	泌尿器科	Novel Frostbite Cooling Device for Real-time Assessment and Prevention of Chemotherapy-induced Peripheral Neuropathy	Plast Reconstr Surg Glob Open. 2025 Jan 17;13(1):e6423. (オンライン)	Journal Article
111	Matsui Yuki, Yanagida Wahei, Kishi Hirotaka, et al.	泌尿器科	Dedifferentiated Liposarcoma of the Spermatic Cord: A Case Report and Review of the Literature	Cureus. 2025 Mar 8;17(3):e80264. (オンライン)	Case Report
112	Oshinomi Kazuhiko, Mugita Toshiki, Inoue Tatsuki, et al.	泌尿器科	Current Status of Sequential Treatment for Castration-resistant Prostate Cancer: A Retrospective Analysis	Cancer Diagn Progn. 2025 Jan 3;5(1):56–61. (オンライン)	Journal Article
113	Murakami Wakana, Mortazavi Shabnam, Yu Tiffany, et al.	放射線科	Clinical Significance of Background Parenchymal Enhancement in Breast Cancer Risk Stratification	J Magn Reson Imaging. 2024 May;59(5):1742–1757.	Journal Article
114	Shimo Takahiro, Shiba Shintaro, Watanabe Hiroyuki, et al.	放射線科	Evaluation of the Mini-ridge Filter's Impact on the Generation of Secondary Radiation in Synchrotron-based Proton Beam Therapy	J Med Phys. 2025 Jan–Mar;50(1):14–19.	Journal Article

115	Takeyama Nobuyuki, Sasaki Yasushi, Ueda Yasuo, et al.	放射線科	Magnetic resonance imaging-based radiomics analysis of the differential diagnosis of ovarian clear cell carcinoma and endometrioid carcinoma: a retrospective study	Jpn J Radiol. 2024 Jul;42(7):731–743.	Journal Article
116	Fukura Rena, Ishida Yusuke, Kaneda Yuri, et al.	麻酔科	A Case Report on an Unknown Etiology Disorder of Consciousness Following Extubation Despite Thorough Evaluation	Cureus. 2024 Dec 10;16(12):e75513. (オンライン)	Case Report
117	Hosokawa Maiko, Takahashi Yurie, Ueno Takahiro, et al.	麻酔科	Remimazolam anesthesia in pediatric patients undergoing cardiac catheterization for congenital heart disease: a retrospective observational study	J Anesth. 2024 Dec;38(6):796–805.	Journal Article
118	Hosokawa Yuki, Kato Rie, Ohsugi Eriko, et al.	麻酔科	Challenges with two epidural catheters for labor analgesia in a patient with lumbar adhesions: a case report	JA Clin Rep. 2024 Jun 18;10(1):41. (オンライン)	Journal Article
119	Ishida Yusuke, Kobayashi Reon, Hara Eiko, et al.	麻酔科	Intractable pain due to thoracic outlet syndrome successfully treated with percutaneous epidural adhesiolysis: A case report	SAGE Open Med Case Rep. 2024 Nov 19;12:2050313X241299956. (オンライン)	Case Report
120	Kobayashi Reon, Okano Ichiro, Taketomi Asae, et al.	麻酔科	Coccydynia Improved by Percutaneous Discectomy	Cureus. 2024 Nov 27;16(11):e74564. (オンライン)	Case Report
121	Sagawa Tomoki, Ishida Yusuke, Sasaki Tomomi, et al.	麻酔科	Anesthesia management using remimazolam for coronary artery bypass grafting and aortic valve replacement in a patient with severe cardiac dysfunction: A case report	SAGE Open Med Case Rep. 2024 Dec 25;12:2050313X241310640. (オンライン)	Case Report
122	Yamaguchi Sumika, Ishida Yusuke, Sasaki Tomomi, et al.	麻酔科	Remimazolam for simultaneous percutaneous mitral valve clip and percutaneous left atrial appendage closure in an elderly patient with impaired cardiac function: A case report	Clin Case Rep. 2024 Jul 21;12(7):e9215. (オンライン)	Case Report
123	Hatano Mika, Yajima Nobuyuki, Yanai Ryo, et al.	リウマチ・膠原病内科	Development of quality indicators for pregnancy and childbirth in patients with systemic lupus erythematosus	Mod Rheumatol. 2024 Oct 15;34(6):1170–1177.	Journal Article
124	Isojima Sakiko, Li Ning, Rowson Saskia, et al.	リウマチ・膠原病内科	Pregnancy outcomes in Australian patients with systemic lupus erythematosus	Intern Med J. 2024 Nov;54(11):1876–1882. (オンライン)	Journal Article
125	Shimizu Kunika, Yajima Nobuyuki, Yanai Ryo, et al.	リウマチ・膠原病内科	Prognostic Factors for Mortality in Patients With Autoimmune Diseases Complicated by Pneumocystis Pneumonia	Cureus. 2024 Aug 25;16(8):e67749. (オンライン)	Journal Article
126	Shimizu Kunika, Yanai Ryo, Yamamoto Kie, et al.	リウマチ・膠原病内科	Melanoma Differentiation-associated Gene 5–Positive Rapidly Progressive Interstitial Lung Disease Successfully Treated with Tofacitinib	Intern Med. 2025 Feb 15;64(4):609–612. (オンライン)	Case Report
127	Shiroshita Akihiro, Kataoka Yuki, Wang Qianzhi, et al.	リウマチ・膠原病内科	Joint associations of air pollutants during pregnancy, infancy, and childhood with childhood persistent asthma: Nationwide database study in Japan	Ecotoxicol Environ Saf. 2024 Aug;281:116626. (オンライン)	Journal Article
128	Shiroshita Akihiro, Kataoka Yuki, Wang Qianzhi, et al.	リウマチ・膠原病内科	Pollen as a mediator between environmental greenness during pregnancy and infancy periods and childhood persistent asthma: A nationwide retrospective birth cohort study in Japan	Environ Pollut. 2024 Dec 15;363(Pt 1):125039. (オンライン)	Journal Article
129	Shiroshita Akihiro, Kataoka Yuki, Wang Qianzhi, et al.	リウマチ・膠原病内科	Prenatal exposure to greenness and early childhood pneumonia: a nationwide study in Japan	Eur Respir J. 2025 Mar 6;65(3):2402181. (オンライン)	Letter
130	Tsujimoto Yasushi, Tsutsumi Yusuke, Kataoka Yuki, et al.	リウマチ・膠原病内科	The impact of continuity correction methods in Cochrane reviews with single-zero trials with rare events: A meta-epidemiological study	Res Synth Methods. 2024 Sep;15(5):769–779.	Journal Article
131	Yabe Hiroaki, Inoue Ryoichi, Yanai Ryo, et al.	リウマチ・膠原病内科	Spinal Epidural Abscess Caused by Campylobacter jejuni Without Gastrointestinal Symptoms	Cureus. 2024 Sep 1;16(9):e68408. (オンライン)	Case Report
132	Yusuke Miwa, Hiroi Tomioka, Yuko, Miwa-Mitamura	リウマチ・膠原病内科	Diagnosis of Mental Disorders Complicated by Rheumatoid Arthritis: A Study of the Validity of a Questionnaire Method and Diagnosis by the Psychiatrist	Eur J Rheumatol. 2024 Nov 28;11(4):405–409. (オンライン)	Journal Article
133	Kosuge Shota, Masaoka Yuri, Kasai Hideyo, et al.	脳神経内科	The right amygdala and migraine: Analyzing volume reduction and its relationship with symptom severity	PLoS One. 2024 Apr 1;19(4):e0301543. (オンライン)	Journal Article
134	Kuroda Takeshi, Ito Naohito, Kubota Satomi, et al.	脳神経内科	Idiopathic Extracranial Internal Carotid Artery Vasospasm Presenting as Photophobia	Intern Med. 2025 Feb 1;64(3):481–482. (オンライン)	Journal Article
135	Shoji Daiki, Honma Motoyasu, Masaoka Yuri, et al.	脳神経内科	Aging, not Parkinson's disease, decreases a recalibration of body ownership caused by vision-respiratory interaction	Front Physiol. 2024 Oct 31;15:1419473. (オンライン)	Journal Article
136	Yamamoto Ken, Kuroda Takeshi, Kubota Satomi, et al.	脳神経内科	Cushing's syndrome developing myasthenia gravis with takotsubo cardiomyopathy after adrenalectomy: a case report	BMC Neurol. 2024 Sep 20;24(1):355. (オンライン)	Case Report
137	Yamamoto Ken, Tsuji Mayumi, Oguchi Tatsunori, et al.	脳神経内科	Comparison of Protective Effects of Antidepressants Mediated by Serotonin Receptor in A β -Oligomer-Induced Neurotoxicity	Biomedicines. 2024 May 23;12(6):1158. (オンライン)	Journal Article
138	Ishii Hiroki, Yamada Hiroki, Sato Ryotaro, et al.	精神神経科	Obesity-associated factors in psychiatric outpatients: A multicenter questionnaire survey	Neuropsychopharmacol Rep. 2024 Sep;44(3):620–630. (オンライン)	Journal Article
139	Nakamura Dan, Hanawa Yoichi, Seki Shizuka, et al.	精神神経科	Predictive model using autism diagnostic observation schedule, second edition for differential diagnosis between schizophrenia and autism spectrum disorder	Front Psychiatry. 2024 Dec 18;15:1493158. (オンライン)	Journal Article

140	Tazaki Taro, Yamada Hiroki, Sato Ryotaro, et al.	精神神経科	Constipation-associated factors in outpatients with schizophrenia: A multicenter questionnaire survey	Neuropsychopharmacol Rep. 2024 Sep;44(3):604–613. (オンライン)	Journal Article
141	Toda Shigenobu, Tsushima Sakiko, Takashio Osamu, et al.	精神神経科	The repressed life of adult female patients with mild ADHD	Front Psychiatry. 2024 Oct 9;15:1418698. (オンライン)	Journal Article
142	Kisanuki Yuki, Asano Yasuhiko, Tomoyori Eiji, et al.	眼科	Trocar-assisted extraocular technique for intrascleral intraocular lens fixation using a 90° -curved forceps: a modified extraocular forceps-guided technique	Jpn J Ophthalmol. 2024 Sep;68(5):538–547.	Journal Article
143	Otsuka Koji, Goto Satoru, Ariyoshi Tomotake, et al.	食道がんセンター	Long-Term Outcomes of Carbon Dioxide Insufflation in Thorascopic Esophagectomy After Neoadjuvant Chemotherapy for Esophageal Squamous Cell Carcinoma: A Retrospective Cohort Study	Cureus. 2024 Jul 21;16(7):e65053. (オンライン)	Journal Article
144	Fujii Takanari	小児循環器・成人先天性心疾患センター	Characteristics of the Device and Conduction Disturbances in Transcatheter Device Closure of Perimembranous Ventricular Septal Defects	Circ J. 2024 Aug 23;88(9):1380–1382. (オンライン)	Journal Article
145	Horio Naohiro, Shimizu Shuji, Kotani Yasuhiro, et al.	小児循環器・成人先天性心疾患センター	Evaluation of the effects of fenestration in Fontan circulation using a lumped parameter model	J Physiol Sci. 2024 Dec 21;74(1):58. (オンライン)	Journal Article
146	Kakimoto Hisako, Fujii Takanari, Tomita Hideshi	小児循環器・成人先天性心疾患センター	Repair of iatrogenic left pulmonary artery to left atrial appendage fistula using a covered CP stent: a case report	Cardiol Young. 2024 Apr;34(4):922–923. (オンライン)	Case Report
147	Omomo Yui, Mochizuki Yasuhide, Yokokawa Daisuke, et al.	超音波センター	Contrast echocardiography during exercise stress in a case of congenitally corrected transposition of the great arteries after double-switch operation	J Echocardiogr. 2024 Dec;22(4):224–226.	Journal Article
148	Hoshi Akane, Funakoshi Haruki, Otoyama Yumi, et al.	病院薬剤学	Kampo medicine inducing drug-induced liver injury: A case report and systematic review	Drug Discov Ther. 2025 Jan 14;18(6):325–335.	Case Report
149	Iha Tatsuki, Watanabe Ayako, Saeki Misa, et al.	病院薬剤学	Combined sepsis- and renal dysfunction-induced hypoglycaemia in an older patient taking cibenzoline	Clin Case Rep. 2024 Jun 2;12(6):e8816. (オンライン)	Case Report
150	Inagaki Takahito, Ichimura Takenori, Ichikura Daisuke, et al.	病院薬剤学	Black Pigmentation on the Tongue Induced by Long-Term Use of Tetracycline Antibiotics in a Colorectal Cancer Patient With Epidermal Growth Factor Receptor (EGFR) Inhibitor-Associated Skin Lesions: A Case Report and Literature Review	Cureus. 2025 Feb 18;17(2):e79261. (オンライン)	Case Report
151	Momo Kenji, Moriya Kanae, Itoh Ayaka, et al.	病院薬剤学	Public Knowledge and Attitude of Caregivers Regarding Leftover Medications for Children under 6 Years of Age in Japan: A Descriptive Study on a Nationwide Exploratory Questionnaire Survey to Caregivers	Biol Pharm Bull. 2024.Oct;47(10):1690–1698. (オンライン)	Journal Article
152	Nakajima Kota, Momo Kenji	病院薬剤学	A severe tremor caused by a beta2 agonist in a patient with asthma-chronic obstructive pulmonary disease overlap	Clin Case Rep. 2024 Jul 31;12(8):e9137. (オンライン)	Case Report
153	Nakatani Kaori, Momo Kenji, Kin Masaaki, et al.	病院薬剤学	Severe thrombocytopaenia caused by trastuzumab emtansine in a patient with breast cancer: A case report	SAGE Open Med Case Rep. 2024 Sep 27;12:2050313X241286657. (オンライン)	Case Report
154	Sunaga Tomiko, Maeda Masayuki, Sauli Rosella, et al.	病院薬剤学	Anti-vascular endothelial growth factor biosimilars for neovascular age-related macular degeneration	Cochrane Database Syst Rev. 2024 Jun 3;6(6):CD015804. (オンライン)	Journal Article
155	Takahashi Nobuyuki, Mori Yukiko, Momo Kenji, et al.	病院薬剤学	Duloxetine-induced syndrome of inappropriate antidiuretic hormone secretion in a patient with neuropathic pain	Clin Case Rep. 2024 Nov 11;12(11):e9526. (オンライン)	Journal Article
156	Watanabe Ayako, Ogawa Yu, Saeki Misa, et al.	病院薬剤学	Different Patterns of Platelet Count Fluctuation in Response to Various Anticancer Chemotherapies among Patient with Bladder Cancer	Case Rep Oncol. 2024 Nov 12;17(1):1277–1281. (オンライン)	Case Report

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	☒ 有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	☒ 有・無
・ 手順書の主な内容	
①審査機関（委員会）の審査範囲及び申請書類提出窓口について	
②審査申請のための事前準備について	
③審査申請に必要とされる書類について	
④申請書類の作成について（参照すべき指針を含む）	
⑤申請から審査・承認までの流れについて	
⑥申請から研究実施までのフローチャート	
⑦研究計画の経過報告及び終了報告について	
⑧重篤な有害事象及び不具合への対応について	
⑨研究計画に伴って発生した苦情の窓口について	
⑩昭和大学における人を対象とする研究等に関する倫理委員会に関する問い合わせ先について	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年24回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	☒ 有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	☒ 有・無
・ 規定の主な内容	
①利益相反の定義	

②利益相反マネジメントの対象者 ③利益相反マネジメントの対象範囲 ④利益相反委員会について ⑤利益相反審議等について	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年25回

(注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年1回
・研修の主な内容 (1) 最新のトピックス ・倫理指針変更のポイント ・個人情報保護の改正 ・昭和大学の臨床研究電子申請システムについて (2) 研究倫理に関する重要事項 2-1研究に関わる不正行為 2-2研究者等の基本的な責務 2-3臨床研究の倫理原則 2-4インフォームド・コンセント 2-5研究計画の原則 2-6データの採取・収集について (3) 臨床研究の審査申請に関する説明 3-1臨床研究の区分 3-2第三者による倫理審査 3-3昭和大学における倫理審査体制/倫理審査受付システムの変更	

3-4利益相反（COI）の管理

3-5定期報告・終了報告

3-6研究試料・情報の保管

（４）昭和大学の研究（支援）体制の説明

4-1【昭和大学統括研究推進センター

（SURAC：Showa University Research Administration Center）】の体制について

4-2臨床研究アドバイザーについて

4-3SURACのデータ管理室業務

（注）前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

臨床研修修了後、各診療科において本学の特色である「チーム医療」を活かした専門的な研修を行っている。

特に内科部門においては、内科研修医制度を独自に制度化している。臨床研修修了後の3年目に内科系診療科を目指す者は、1年間内科学講座に所属して日本内科学会の認定内科医資格を取得出来るように資格取得条件としている18症例全ての内容を各領域の診療科長から評価してもらっている。症例不足分野に関しては必要な診療科でのローテーションを義務付けており、臨床研修期間を含めた3年間で内科領域に精通し、なおかつ専門分野の知識を有した人材の育成に努めている。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	195人
-------------	------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
田中 明彦	呼吸器・アレルギー内科	教授	27年	
矢嶋 宜幸	リウマチ・膠原病内科	教授	25年	
山岸 昌一	糖尿病・代謝・内分泌内科	教授	35年	
本田 浩一	腎臓内科	教授	32年	
吉田 仁	消化器内科	教授	38年	
服部 憲路	血液内科	教授	21年	
新家 俊郎	循環器内科	教授	31年	
堀池 篤	腫瘍内科	教授	28年	
時松 一成	感染症内科	教授	33年	
横山 和彦	緩和医療科	准教授	34年	
相良 博典 (代)	呼吸器外科	教授	36年	
山口 裕己	心臓血管外科	教授	38年	
青木 武士	消化器・一般外科	教授	30年	
五藤 哲	食道外科	准教授	15年	
林 直輝	乳腺外科	教授	24年	
渡井 有	小児外科	教授	33年	
水谷 徹	脳神経外科	教授	39年	
工藤 理史	整形外科	教授	23年	
笠井 史人	リハビリテーション科	教授	33年	
高木 信介	形成外科	准教授	22年	
関沢 明彦	産婦人科	教授	34年	
水野 克己	小児科	教授	36年	
嶋根 俊和	耳鼻咽喉科	教授	28年	

猪又 直子	皮膚科	教授	30年	
深貝 隆志	泌尿器科	教授	38年	
扇谷 芳光	放射線科	教授	29年	
伊藤 芳紀	放射線治療科	教授	29年	
大江 克憲	麻酔科	教授	34年	
阿部 智一	集中治療科	教授	21年	
土肥 謙二	救命救急科	教授	37年	
垂水 庸子	総合・救急診療科	准教授	23年	
矢持 淑子	臨床病理診断科	教授	33年	
山口 麻子	病院歯科	講師	29年	
藤井 隆成	小児循環器内科	教授	25年	
宮原 義典	小児心臓血管外科	教授	25年	
村上 秀友	脳神経内科	教授	25年	
恩田 秀寿	眼科	教授	24年	
村上 秀友（代）	精神神経科	准教授	26年	
相良 博典（代）	東洋医学科	教授	25年	
岡 秀一郎	歯科麻酔科	准教授	41年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）

・研修の主な内容

<全職員>

1. 活用しようポケットマニュアル 医療安全管理部門編
2. 急病者未然防止システム
3. 生体情報モニタのアラーム 除細動器の取り扱い
4. 医療安全管理体制について
5. 画像診断報告書等の確認不足への取り組みについて
6. 除細動器基礎編
7. 診療用放射線の安全利用のために
8. 医療ガス研修会
9. 医薬品安全管理講習会
10. ポケットマニュアルの活用と感染対策の強化点
11. 抗菌薬の適正使用①
12. 院内感染防止対策基本マニュアル全面改訂について
13. 「抗微生物薬使用の手引き」を用いた抗菌薬適正使用の理解と実践

<看護部>

1. 新人看護師研修会
2. プリセプター研修
3. チームリーダー研修
4. 新人教育責任者研修
5. 卒後2年目研修
6. 看護師既卒入職者・中途採用者・学内異動者研修（感染・医療安全含む）
7. ナースヘルパー研修（看護補助者対象）
8. ナースヘルパー研修（看護師対象）
9. クリニカルラダー別研修
10. 新任係長研修
11. 師長研修

<放射線技術部>

1. 災害対策講義
2. 感染対策講義
3. ルミネスバッジ着用者教育訓練
4. 放射線治療関連機器安全使用のための定期研修
5. ヨウ素125密封小線源治療による前立腺永久挿入治療に係る安全取り扱いの教育訓練
6. 放射線技術部研修会
7. 造影剤取り扱い研修会（エピペン講習会、ヨード造影剤）
8. MRI実地訓練
9. CT・MRI造影剤副作用訓練

<薬剤部>

1. 新規採用薬研修
2. 薬物療法セミナー
3. 新任薬剤師（臨床研修薬剤師）研修

<臨床検査室>

1. 新入職員研修会
2. 階層別研修会
3. 外部精度管理報告会
4. 部内勉強会

<臨床工学室>

重要8品目ローカル講習会、eラーニング、人工呼吸器、体外循環（ECMO含む）、血液浄化、機器全般（輸液、シリンジ含む）等

・研修の期間・実施回数

<全職員>

eラーニング：年1回

<看護部>

1. 半日・年17回、1日・年7回、60分・年2回、80分・年1回、90分・年1回、105分・年1回、120分・年2回、135分・年2回
2. 半日・年1回、1時間・年3回
3. 1時間・年5回
4. 半日・年1回
5. 半日・年1回
6. 1日、半日・年1回
7. 3時間・1回、1時間・年5回、45分・年1回、30分・年1回、1時間・年1回、45分・年1回
8. 半日・年1回、40分・1回
9. 1時間・年34回
10. 半日・年1回
11. 半日・年1回

<放射線技術部>

1. 1日・1回
2. 1日・1回
3. eラーニング：年1回
4. 1日・eラーニング：2回
5. 1日・eラーニング：1回
6. 1日：年10回
7. 1日：年2回
8. 1日：22回
9. 1日：年2回

<薬剤部>

1. eラーニング・年6回
2. eラーニング・年6回
3. eラーニング・年36回

<臨床検査室>

1. 半日、年1回
2. ①主事以下②主事以上：半日、年2回
3. ①、②1.5時間、年2回
4. 1時間、年1回

<臨床工学室>

2024年4月1日～2025年3月31日、
重要8品目ローカル講習会8回、eラーニング2回、
MRI検査禁忌事項学習プログラム1回、新人看護職員研修2回、
その他部署別研修63回

・研修の参加人数

<全職員>

参加人数1456人（医師・歯科医師・臨床研修医を除く）

<看護部>

1. 151名
2. 140名
3. 78名
4. 38名
5. 69名
6. 51名
7. 223名
8. 562名
9. 834名
10. 15名
11. 25名

<放射線技術部>

1. 24名（8/6）
2. 38名（5/16）
3. 657名（医師255名、看護師314名、医学物理士1名、診療放射線技師65名、臨床工学士22名）
4. 1回目：74名（医師11名、看護師6名、医学物理士1名、診療放射線技師56名）
2回目：70名（医師8名、看護師6名、医学物理士1名、診療放射線技師55名）
5. 9名
6. 158名（10/3：10名、10/9：27名、10/22：19名、11/5：21名、11/19：23名、11/27：11名、
1/17：12名、1/30：12名、2/12：12名、3/18：11名）
7. 1回目 エピペン講習会：27名（7/10）
2回目 ヨード造影剤：28名（8/23）
8. 195名（看護師184名、看護助手11名）
9. 72名（医師5名、看護師13名、診療放射線技師9名）

<薬剤部>

1. 77名
2. 77名
3. 19名

<臨床検査室> 1. 9名 2. ①91名②27名 3. ①45名②43名 4. 43名 <臨床工学室> 重要8品目ローカル講習会全8回計231人、eラーニング2回計3758人、MRI検査禁忌事項学習プログラム1回計195人、新人看護職員研修2回計238人、その他部署別研修63回計192人
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
・研修の主な内容 <放射線技術部> 1. 統括放射線技術部階層別ワークショップ（課長・係長、主事・主査・技術員） ・研修の期間・実施回数 <放射線技術部> 1. 1日・2回 ・研修の参加人数 <放射線技術部> 1. 16名（10/19 課長・係長：8名、12/14 主事・主査・技術員：8名）
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
・研修の主な内容 ・研修の期間・実施回数 ・研修の参加人数

（注）1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

（注）2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状
管理責任者氏名	病院長 相良 博典	
管理担当者氏名	管理課長 山口 義隆、クオリティマネジメント課長 浅川 悦久 医事入院課長 田邊 聡	

			保 管 場 所	管 理 方 法
診療に関する諸記録	事項 規則第二十二 条の三第二項に 掲げる	病院日誌	管理課	2018年より診療記録は電子カルテ化されており、ペーパーレス運用となっている。電子カルテの情報は医療情報室に申請手続きをしないと抽出できない運用となっており、個人情報とは原則的に付与されないこととなっている。 また紙カルテ・フィルムは、外部委託倉庫に保管しており、貸出・閲覧時には院外持ち出しを禁止としている。
		各科診療日誌	管理課	
		処方せん	電子カルテ	
		手術記録	電子カルテ	
		看護記録	電子カルテ	
		検査所見記録	電子カルテ	
		エックス線写真	電子カルテ	
		紹介状	電子カルテ	
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	電子カルテ	
病院の管理及び運営に関する諸記録	事項 規則第二十二 条の三第三項に 掲げる	従業者数を明らかにする帳簿		
		高度の医療の提供の実績	クオリティマネジメント課	
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	クオリティマネジメント課	
		高度の医療の研修の実績	クオリティマネジメント課	
		閲覧実績	管理課、クオリティマネジメント課、医事入院課、医事外来課	
		紹介患者に対する医療提供の実績	医事外来課、医事入院課	
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	患者数：医事入院課。医事外来課 調剤数：薬剤部	
	に規則第一 条の十一第一 項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	各診療科、部門、病棟、外来、検査室の医療安全対策基本マニュアル内に保管	
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理部門	
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理部門	
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理部門	

			保 管 場 所	管 理 方 法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	電子カルテ内・各部署の院内感染防止対策基本マニュアル内に保管	
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染管理部門	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染管理部門	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染管理部門	
		医薬品安全管理責任者の配置状況	医療安全管理部門及び薬剤部	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	医療安全管理部門及び薬剤部	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	医療安全管理部門及び薬剤部	
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療安全管理部門及び薬剤部	
		医療機器安全管理責任者の配置状況	医療安全管理部門及び臨床工学室	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	医療安全管理部門及び臨床工学室	
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	医療安全管理部門及び臨床工学室	
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療安全管理部門及び臨床工学室	

		保 管 場 所	管 理 方 法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第二項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全管理部門
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染管理部門
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	医療安全管理部門及び薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	診療録管理室
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	診療録管理室
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全管理部門
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医療安全管理部門
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医療安全管理部門及び薬剤部
		監査委員会の設置状況	医療安全管理部門
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全管理部門
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全管理部門
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全管理部門
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	医療安全管理部門
		職員研修の実施状況	医療安全管理部門
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療安全管理部門
		管理者が有する権限に関する状況	管理課
		管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	管理課
		開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	管理課

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画 ②. 現状
閲覧責任者氏名	病院長 相良博典
閲覧担当者氏名	管理課長 山口 義隆 クオリティマネジメント課長 浅川 悦久 医事入院課長 田邊 聡
閲覧の求めに応じる場所	管理課、クオリティマネジメント課、医事入院課、医事 外来課
閲覧の手続の概要 病院長宛ての依頼文書に基づき、担当部署から依頼者へ手続き等の連絡を行い、閲覧を許可する	

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前 年 度 の 総 閲 覧 件 数		延 0 件
閲 覧 者 別	医師	延 0 件
	歯科医師	延 0 件
	国	延 0 件
	地方公共団体	延 0 件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
・ 指針の主な内容： 1. 目的 2. 基本的な考え方 3. 適用範囲 4. 主管部署 5. 医療安全に係る職員の責務 6. 用語の定義 7. 医療安全管理のための体制確保 8. 医療安全に係る管理者の配置 9. インシデント・アクシデントの院内報告制度 10. インシデントの対応 11. 医療事故(アクシデント)の対応 12. インシデント・アクシデントの分析や症例検討の実施およびその対策・実行・評価 13. 医療安全管理に係る研修について 14. 医療従事者と患者との間の情報共有に関する基本方針 15. 医療安全情報の非開示 16. 患者からの相談への対応 17. その他医療安全の推進に必要な基本方針 18. 医療安全体制の監査 19. 高難度新規医療技術、未承認新規医薬品等の導入	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
・ 設置の有無（ 有・無 ） ・ 開催状況：年 12回 ・ 活動の主な内容： 1. 医療安全のガバナンス体制の管理及び維持・向上のため必要な情報収集、分析、企画・立案、実行・周知及び評価・改善 2. 医療の質の維持・向上並びに、医療事故等の防止、安全管理のための指針の整備 3. 医療の質の維持・向上並びに、医療事故等の防止、安全管理のためのマニュアル等の整備 4. 重大な医療事故等が発生した場合には速やかに調査を行い、原因の究明（分析）及びその対応（改善策の実施）を行う。その対応についての職員周知 5. 前項(4)において実施された対応について必要に応じて調査と見直し 6. 医療事故等の院内報告制度の整備 7. 医療事故調査制度に係る対象事例の判断 8. すべての死亡事例、病院長が定める水準以上の事例の収集状況の確認と確認結果の病院長への報告及び職員への研修・指導に関すること 9. その他、医療事故に関するすべて(訴訟も含む)の事項を検討し、適切かつ速やかな対策の検討	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年2回
・ 研修の内容（すべて）： 1. 活用しようポケットマニュアル 医療安全管理部門編 2. 医療安全管理体制について 受講対象者：3,111人 受講者数：3,111人 受講率100%	

④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医療機関内における事故報告等の整備 (☒ 有 ・ 無)
- ・ その他の改善のための方策の主な内容 :

各部署内でインシデント、アクシデント事例は、各部署の所属長、セーフティーマネジャー及び関係者による分析、改善策が検討されインシデント及び状況報告書で医療安全管理部門に報告される。報告されたインシデントレポートは医療安全管理者が全件閲覧し、患者に与えた影響度、発生頻度、組織としての対応や情報共有の必要性を考慮し、カテゴリーに分類して抽出する。事例によっては、医療安全主導で医療安全調査委員会や症例検討会(年30件程度)やM&Mカンファレンスを開催している。また、インシデント防止を目的に、各部署のセーフティーマネジャーが集まるテーマ別分科会で、インシデント内容の分析を基に複数の検討チームに分かれ、運用案を検討・立案する。その結果はMSM委員会、医療安全管理・対策委員会に報告される。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
- 指針の主な内容： - 基本的な考え方 - 病院感染防止の体制確保 (委員会・部門・ICT・ASTの設置、感染管理者・感染リクドクター・感染リクナーズの配置) - 病院感染等の院内報告制度 - 病院感染等の発生時の対応 - 職員教育(職員研修の実施) - その他感染防止対策の推進のために必要な基本方針	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年12回
- 活動の主な内容： - 医療関連感染に関する対策の決定と原因分析、調査 - 職業感染予防に関連した安全機材や個人防護具の選定、ワチンプログラム[®]の推進、接触者検診の検討 - 病院内で発生した感染症と薬剤耐性菌、職員の針刺し事例について報告 - ICT環境ラウンドとAST(抗菌薬適正使用支援チーム)ラウンド実施と改善状況の報告 - 講習会の開催案内 - マニュアル、指針、委員会規程の見直しと改訂について検討 - 厚生労働省や東京都からの法令改定、通知、感染症情報の共有 - アウトブレイク発生時の要因調査と分析、感染予防策の立案、情報共有 - 相互ラウンドや地域連携カンファレンスの報告 - 手指衛生キャンペーンの実施	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年4回
- 研修の内容(すべて)： - 活用しよう ポケットマニュアル - 抗菌薬の適正使用 - 高度耐性菌のリスクと感染対策について - 内服抗菌薬の適正使用 受講対象者：3,111人 受講者数：3,111人 受講率：100%	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
- 病院における発生状況の報告等の整備 (有・無) 医師や看護師、病院内で勤務する者は、患者や職員の感染症発生時または感染症が疑われる場合、感染管理部門に連絡する。感染管理部門は情報収集と感染予防策の確認や指導、検討を行い、拡大予防と原因の調査を行う。これらの情報をまとめ、毎月院内感染防止対策委員会で事例と対策の実施状況を報告し情報共有を行う。アウトブレイクと判断した場合は東京都福祉保健局と管轄保健所、私立医科大学病院感染対策協議会事務局に報告と相談を行う。 - その他の改善のための方策の主な内容： サーベイランスを実施し感染症や薬剤耐性菌の検出率、デバイス関連感染率、手術部位感染率、手指衛生の遵守率、手指消毒薬の使用状況のベースラインを把握する。感染症発生の早期発見と感染予防策の改善に役立てている。また、定期的に環境ラウンドや抗菌薬適正使用ラウンドを行い、改善支援やプロセス評価、アウトカム評価とフィードバックを継続している。	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	☒ 有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年1回
研修の主な内容： アレルギー薬剤の注意点（eラーニング） 受講対象者：2000名（受講率 100%）	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	- 手順書の作成（☒有・無） - 手順書の内訳に基づく業務の主な内容： 週に一度、病院管理者と医療安全の各担当者による巡視を実施。巡視の時に手順書の内容に沿ったチェックリストを使用し、実施状況を確認。問題があればその場でフィードバックを行っている。問題点は1週間後に再度改善状況を確認している。また病棟担当薬剤師による上記チェックリストに沿った確認を月に一度実施し、その結果を医薬品安全管理責任者が確認している。
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	- 医薬品に係る情報の収集の整備（☒有・無） - 未承認等の医薬品の具体的な使用事例（あれば）： 〈未承認薬〉：先天性心疾患手術におけるシンフォリウム血管修復パッチの使用 〈適応外使用〉：乳び漏に対するエチレフリン塩酸塩の使用 免疫関連有害事象としての腸炎に対するインフリキシマブの使用 難治性中枢サルコイドーシスに対するメトトレキサートの使用 など - その他の改善のための方策の主な内容： ①散剤の用量入力に関するインシデントに伴い、製剤量と原薬量の違いなどをDIニュースを通じて再周知した。 ②オスタバロ皮下注のインシデントに伴い、薬袋などに専用の器具を使用すること、14日分の製剤であることなどを明記し、普段使用しない部署でもわかるように変更した。

（注）前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	☒ 有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年76回
研修の主な内容： 重要8品目ローカル講習会、eラーニング、人工呼吸器関連、体外循環（ECMO含む）、血液浄化、機器全般（輸液、シリンジ含む）等	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
- 医療機器に係る計画の策定（☒ 有・無） - 機器ごとの保守点検の主な内容： 重要8品目、モニタ関連等のメーカー保守契約の定期点検、輸液ポンプ、シリンジポンプ等汎用性の高い機器全般の定期点検等 機器管理ソフトMEROSを使用してPCにて管理（定期点検履歴・修理履歴等）	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
- 医療機器に係る情報の収集の整備（☒ 有・無） 医療機器の安全情報はPMDAの回収情報等やメーカーから情報収集し、新規導入機器等も医療機器安全管理委員会等で報告をしている。 - 未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）： 未承認等の医療機器を使用する際は所定の委員会にて承認を得てからの使用となる。 - その他の改善のための方策の主な内容：	

（注）前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	☑・無
・責任者の資格（医師・歯科医師） ・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況 院内および院外における医療安全管理情報の把握と各医療安全関係管理者への指示・監督を行っている。原則毎週、医療安全管理部門員で集まり、合併症報告やインシデント報告、医薬品の副作用、医療機器の不具合等の情報共有およびそれらに関する対策および再発防止策について議論し、医療安全管理部門の進むべき方向性を医療安全管理責任者が指示している。	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	☑（8名）・無
③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況 ・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況 【各種情報の整理】 薬剤部医薬品情報室にて集約、整理される。 【医薬品安全管理責任者への報告】 薬剤部医薬品情報室担当者より随時報告される。医薬品の使用、採用申請状況は、医薬品安全管理責任者が薬剤部医薬品情報室にて週1回行われるミーティングに出席し共有。また毎日のインシデント事例報告より情報収集。以上の中から対策が必要と判断した場合は対策の立案と実施。 【院内周知】 医薬品安全管理責任者は情報の緊急性・重要性を判断し院内周知を医薬品情報室に依頼し、月2回発行のDIニュースや各診療科へのメール、電子カルテへの掲載を以って院内周知を行うが、医療安全ニュース（最低月1回）にて医療安全管理部門から発信する場合もある。また、PMDAへの副作用報告や院内採用品の自主回収等の情報は、医薬品安全管理責任者が週1回の医療安全定例会にて報告する。 ・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況 病棟担当者からの報告、医薬品情報管理室への問い合わせ等により未承認薬等の使用に関する相談を受けた場合、まず必要性和緊急度を確認し、代替薬の検索・提案を行う。代替薬が無い場合には、委員会への申請の必要性を判断し、必要なら申請を依頼。同時に担当者に依頼し、妥当性・有効性・安全性・経済性の観点から情報の収集・整理を行う。これらの情報を随時、医療安全管理部門と共有し、その情報を基に委員会にて審議を行う。使用開始後は、申請科・病棟担当者と共同して有効性の確認と有害事象をモニタリングする。	

・担当者の指名の有無（ ☒ ・無） ・担当者の所属・職種： （所属：薬剤部，職種 薬剤師）（所属：，職種） （所属：，職種）（所属：，職種） （所属：，職種）（所属：，職種） （所属：，職種）（所属：，職種）	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	☒ ・無
・医療の担い手が説明を行う際と同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無（ ☒ ・無） ・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容： 診療録管理室において、手術や処置・検査に対する説明・同意書の量的点検が全例実施されており、規程に定められた事項の遵守状況を確認している。その点検結果は、診療録管理室運営委員会にて報告されており、説明・同意書の記載内容、同席者の有無、書式の遵守状況等が報告されるとともに、不備については委員会委員長より指導がなされている。また診療記録において、重要 IC を中心に所定のテンプレートへの記載が行われていることを集計しており、医療安全管理・対策委員会を通して、医療安全管理部門長が「患者への説明内容」や「意思決定支援にもとづいた患者・家族の反応」を多職種でテンプレート記載していくよう指導を行っている。	

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	☒ ・無
・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容： 毎月 3 診療科各 10 症例の診療録に対して、診療録の記載内容（プログレスノート、インフォームドコンセント、カンファレンス）の監査を医師・看護師・薬剤師によって実施している。また、その結果を診療録管理室運営委員会および病院運営委員会で報告するとともに、当該診療科にフィードバックして指導することにより改善を促している。	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	☒ ・無
・所属職員：専従（3）名、専任（6）名、兼任（17）名 うち医師：専従（1）名、専任（1）名、兼任（6）名 うち薬剤師：専従（1）名、専任（1）名、兼任（0）名 うち看護師：専従（1）名、専任（1）名、兼任（2）名 （注）報告書を提出する年度の 10 月 1 日現在の員数を記入すること	

・活動の主な内容：

- (1) 医療安全のガバナンス体制の推進及び整備
- (2) 医療安全のガバナンス体制の管理及び維持・向上のため必要な情報収集及び分析、評価
- (3) 医療事故に関する報告窓口業務
- (4) 医療事故に関する初期情報収集と対応。
- (5) 医療事故等の原因究明および診療録や看護記録等への記載が正確かつ十分にされている事の確認と必要な指導
- (6) 医療の質の維持・向上並びに医療事故の防止、安全管理のための職員への教育・研修の企画・立案及び実行、周知徹底
- (7) 医療安全に関わる連絡調整
- (8) 医療の質の維持・向上並びに医療事故に関する書類等の確認及び必要な指導
- (9) 医療事故発生時の患者及び家族への説明などの対応状況の確認、当該部署への必要な指導
- (10) 所管する会議等の運営、資料及び議事録の作成と保存、並びに会議の業務
- (11) 訴訟に関する業務
- (12) 当該事故関係医療従事者の支援（精神的サポート体制の提供含む）
- (13) 院内の全死亡事例の監査
- (14) 情報収集窓口の管理及び対応
- (15) 高難度新規医療技術の評価及び管理
- (16) 未承認新規医薬品等の評価及び管理
- (17) 診療録管理室と連携し、インフォームド・コンセント及び診療記録の質に関する監査に資すること
- (18) インシデントレベルに関係なく重要な検討が必要な事例に関する症例検討会
- (19) 各部門における医療安全対策の実施状況の評価に基づき、医療安全確保のための実施状況及び評価結果の確認
- (20) 医療安全に関する情報の配信
 - ・ 医療安全ニュース（1 回/月）
 - ・ 最近の医療事故ニュース（1 回/月）

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。

※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・ 前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（23 件）、及び許可件数（21 件）
- ・ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（ ☒ ・ 無 ）
- ・ 高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（ ☒ ・ 無 ）
- ・ 活動の主な内容：
 - （1）高難度新規医療技術の導入に関する適否等の評価および管理を行う。
 - （2）高難度新規医療技術の新規・変更窓口を行う。
 - （3）高難度新規医療技術を適用した全症例の把握を行う。
 - （4）高難度新規医療技術評価委員会等の資料および議事録の作成と管理を行う。
- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（ ☒ ・ 無 ）
- ・ 高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（ ☒ ・ 無 ）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・ 前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（20 件）、及び許可件数（19 件）
- ・ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（ ☒ ・ 無 ）
- ・ 未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（ ☒ ・ 無 ）
- ・ 活動の主な内容：
 - （1）未承認新規医薬品等に関する適否等の評価および管理を行う。
 - （2）未承認新規医薬品等の新規・変更申請の窓口業務を行う。
 - （3）未承認新規医薬品等を使用した全症例の把握を行う。
 - （4）未承認新規医薬品等評価委員会等の資料および議事録の作成と管理を行う。
- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（ ☒ ・ 無 ）
- ・ 未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（ ☒ ・ 無 ）

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 739 件
- ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 21 件
- ・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容

事例の収集状況の確認と確認結果の病院長への報告及び職員への研修・指導について、医療安全管理部門に実施の指示をする。

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院等への立入り（☒（病院名：聖マリアンナ医科大学病院）・無）
- ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（☒（病院名：聖マリアンナ医科大学病院）・無）
- ・技術的助言の実施状況

他の特定機能病院からの以下の助言に対して対応

【助言】

- ①研修医へのインシデントレポートを義務化されており、レポート記載のきっかけには非常に有益と思われたが、レポートの質の確保が難しいのではないか。
- ②持参薬の代行入力に2病棟のみだが、病棟を広げられるとより良い。

【対応】

- ①指摘の通り、想定したレベルに満たないレポートもあるが、レポート記載をする習慣をつけるためにも、指導をしていきたいと考えている。
- ②各病棟での業務負荷等を考慮し、今後拡大する考えである。

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

- ・体制の確保状況

- 1) 電話相談及び窓口相談（総合相談窓口）
- 2) 投書箱

相談内容をアセスメントし、一時対応は受付部署で行うが、必要に応じて該当する各部署と連携し解決する。その後、関係する部署の所属長や医療安全管理部門長、病院長と院内責任者へ報告する。内容によっては各種委員会にて検討し対応策の検討を行っている。

⑫ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況

1. 活用しようポケットマニュアル 医療安全管理部門編
2. 医療安全管理体制について

受講対象者：3,111人 受講者数：3,111人 受講率100%

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

【管理者】2024年12月9日

2024年度特定機能病院管理者研修 公益財団法人日本医療機能評価機構

【医療安全管理責任者】2024年12月12日

2024年度特定機能病院管理者研修 公益財団法人日本医療機能評価機構

【医薬品安全管理責任者】①2025年1月18日 ②2025年2月14日

① 2024年度特定機能病院管理者研修 公益財団法人日本医療機能評価機構

② 令和6年度医薬品安全管理責任者等講習会 一般社団法人日本病院薬剤師会

【医療機器安全管理責任者】2024年2月14日

2024年度特定機能病院管理者研修 公益財団法人日本医療機能評価機構

(注) 前年度の実績を記載すること

⑭医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況

・第三者による評価の受審状況

令和5年9月 日本医療機能評価機構 病院機能評価受審

・評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況

監査結果は昭和医科大学病院ホームページにて公表している。

・評価を踏まえ講じた措置

特になし。(事故の発生防止に係る第三者評価において、特段の指摘事項無し)

(注) 記載時点の状況を記載すること

規則第7条の2の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

管理者に必要な資質及び能力に関する基準
- 基準の主な内容 (1) 医師であること (2) 心身ともに健全にして人格高潔であること (3) 組織管理能力等の当該病院を管理運営する上で必要な資質及び能力を有すること (4) 医療の高度の安全の確保のために必要な資質及び能力を有すること (5) 診療及び臨床教育・研究に関しての識見を有すること - 基準に係る内部規程の公表の有無（ ☒ ・ 無 ） - 公表の方法 病院ホームページ

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無				☒ ・ 無
- 選考を実施した場合、委員会の設置の有無（ ☒ ・ 無 ） - 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無（ ☒ ・ 無 ） - 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無（ ☒ ・ 無 ） - 公表の方法 病院ホームページ				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関係
小口 勝司	学校法人昭和大学理事長	○	理事長	☒ ・ 無
小風 暁	昭和大学医学部長		医学部長	☒ ・ 無
吉田 仁	昭和大学内科学講座 消化器内科学部門 教授		医学部教授会から選ばれた教授 3 名の内1名	☒ ・ 無
新家 俊郎	昭和大学内科学講座 循環器内科学部門 教授		医学部教授会から選ばれた教授 3 名の内1名	☒ ・ 無
青木 武士	昭和大学外科学講座 消化器一般外科学部門 教授		医学部教授会から選ばれた教授 3 名の内1名	☒ ・ 無
三邊 武幸	学校法人昭和大学理事		理事会から推薦された理事1名	☒ ・ 無
越石 孝一	一般社団法人日本私立 医科大学協会監事		理事会から推薦された外部有識者 2名の内1名	有・ ☒
成田 光男	荏原七丁目町会会長 品川区荏原第二地域センター 管内区政協力委員		理事会から推薦された外部有識者 2名の内1名	有・ ☒

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の
設置及び運営状況

合議体の設置の有無		☒ 有・無	
・合議体の主要な審議内容 病院の経営及び運営の方針、経営目標の設定及び管理、予算執行及び収支 病院における教育・研究、事業計画・中長期計画 等（管理会議・病院運営委員会） ・審議の概要の従業者への周知状況 診療科長補佐会議において報告、学内情報共有基盤（WEB上）にて全病院職員に通知 ・合議体に係る内部規程の公表の有無（ 有・☒無 ） ・公表の方法 ・外部有識者からの意見聴取の有無（ 有・☒無 ）			
合議体の委員名簿			
氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
別紙参照			

規則第 15 条の 4 第 1 項第 1 号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（ ☒ 有 ・ 無 ）
- ・ 公表の方法 病院ホームページ
- ・ 規程の主な内容
 - (1) 経営に関すること
 - ア 事業計画、予算の立案及び執行
 - イ 収支の掌握及び改善
 - (2) 診療に関すること
 - ア 診療体制及び診療科の管理
 - イ 患者サービス
 - (3) 医療安全・感染管理に関すること
 - (4) 病院の業務管理に関すること
 - (5) 病院職員の教育・研究に関すること
 - (6) 人事管理に関すること
 - (7) コンプライアンスに関すること
 - (8) その他病院の管理・運営に必要なこと
- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割
5名の副院長にそれぞれ業務分担を行い、院長（管理者）をサポートする体制を整えている。
（医療安全、感染管理、個人情報、労働安全管理、診療運営、患者支援、中央診療部門、地域連携、広報、救急、災害対策、外科系、内科系、研修医、臨床倫理・研究倫理、保険診療、職員教育研修 等）
- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況
特定機能病院管理者研修（日本医療機能評価機構）

規則第 15 条の 4 第 1 項第 2 号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する
状況

監査委員会の設置状況				☒ ・無	
・ 監査委員会の開催状況：年 2 回 ・ 活動の主な内容： 医療安全各責任者の業務の実施状況について確認する。 理事長又は病院長に是正措置を講ずるよう意見する。 監査結果をホームページで公表する。 ・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無（ ☒・無 ） ・ 委員名簿の公表の有無（ ☒・無 ） ・ 委員の選定理由の公表の有無（ ☒・無 ） ・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無（ 有・☒ ） ・ 公表の方法：					
監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）					
氏名	所属	委員長 （○を付す）	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
近藤 昌昭	弁護士	○	医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者、その他の学識経験を有する者	有・ ☒	1
坂下 暁子	昭和医科大学 横浜市北部病院 病院院長		医療に関する学識経験者	有・ ☒	1
成重 光則	患者代表		医療従事者以外の者で医療を受ける者	有・ ☒	2

- （注） 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。
1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
 3. その他

規則第 15 条の 4 第 1 項第 3 号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを
確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

- ・体制の整備状況及び活動内容
内部監査室を整備し、学校法人昭和医科大学の業務全般について、公正かつ客観的に調査し、その結果に基づき助言・提言を行っている。
- ・専門部署の設置の有無（ ☒ 有 ・ ☐ 無 ）
- ・内部規程の整備の有無（ ☒ 有 ・ ☐ 無 ）
- ・内部規程の公表の有無（ 有 ・ ☒ 無 ）
- ・公表の方法

規則第 15 条の 4 第 1 項第 3 号ロに掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 病院担当理事協議会とは別に病院長は執行役員として理事会に陪席し、 病院業務に係る体制強化を実施している。 ・ 会議体の実施状況（ 年11回 ） ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（ ☒・無 ）（ 年11回 ） ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（ 有・☒ ） ・ 公表の方法			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
別紙参照			有・無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第 15 条の 4 第 1 項第 4 号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合
等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無（ ☒ 有 ・ 無 ） ・ 通報件数（年 0 件） ・ 窓口を提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無（ ☒ 有 ・ 無 ） ・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無（ ☒ 有 ・ 無 ） ・ 周知の方法 全職員に配布しているポケットマニュアルに記載し、周知している。

昭和医科大学病院・附属東病院 管理会議構成員

No.	委員長	氏名	職種	役職
1	○	相良 博典	医師	昭和大学病院長
2		村上 雅彦	医師	昭和大学病院・附属東病院 担当理事
3		村上 秀友	医師	昭和大学病院附属東病院長
4		小林 洋一	医師	昭和大学病院副院長
5		大江 克憲	医師	昭和大学病院副院長
6		吉田 仁	医師	昭和大学病院副院長
7		渡井 有	医師	昭和大学病院副院長
8		青木 武士	医師	昭和大学病院副院長
9		波木井 恵子	看護師	看護部長
10		嶋村 弘史	薬剤師	薬剤部長
11		石崎 兼司	事務員	事務部長
12		山口 義隆	事務員	管理課長
13		田邊 聡	事務員	医事入院課長
15		布村 順一	事務員	東病院管理課長
16		浅川 悦久	事務員	クオリティマネジメント課長
17		渡邊 百合子	事務員	管理課管理係長(陪席)
18		倉地 夏樹	事務員	学校法人昭和大学総務部総務課長(陪席)

昭和医科大学病院 病院運営委員会委員名簿

No.	氏名	委員長	職種	所属	職位
1	相良 博典	○	医師	昭和医科大学病院長	病院長
2	村上 秀友		医師	昭和医科大学病院附属東病院長	病院長
3	小林 洋一		医師	昭和医科大学病院副院長	副院長
4	大江 克憲		医師	昭和医科大学病院副院長	副院長
5	吉田 仁		医師	昭和医科大学病院副院長	副院長
6	渡井 有		医師	昭和医科大学病院副院長	副院長
7	青木 武士		医師	昭和医科大学病院副院長	副院長
8	田中 明彦		医師	呼吸器・アレルギー内科	診療科長
9	矢嶋 宣幸		医師	リウマチ・膠原病内科	診療科長
10	山岸 昌一		医師	糖尿病・代謝・内分泌内科	診療科長
11	本田 浩一		医師	腎臓内科	診療科長
12	服部 憲路		医師	血液内科	診療科長
13	新家 俊郎		医師	循環器内科	診療科長
14	堀池 篤		医師	腫瘍内科	診療科長
15	時松 一成		医師	感染症内科	診療科長
16	横山 和彦		医師	緩和医療科	診療科長
17	山口 裕己		医師	心臓血管外科	診療科長
18	林 直輝		医師	乳腺外科	診療科長
19	諸藤 陽一		医師	脳神経外科	診療科長
20	工藤 理史		医師	整形外科・脊椎外科センター	診療科長
21	笠井 史人		医師	リハビリテーション科	診療科長
22	永井 隆士		医師	リハビリテーション科（東病院）	診療科長
23	高木 信介		医師	形成外科	診療科長
24	関沢 明彦		医師	産婦人科	診療科長
25	松本 光司		医師	産婦人科	教授（員外）
26	恩田 秀寿		医師	眼科	診療科長
27	水野 克己		医師	小児科	診療科長
28	嶋根 俊和		医師	耳鼻咽喉科	診療科長
29	猪又 直子		医師	皮膚科	診療科長
30	深貝 隆志		医師	泌尿器科	診療科長
31	扇谷 芳光		医師	放射線科	診療科長
32	伊藤 芳紀		医師	放射線治療科	診療科長
33	阿部 智一		医師	集中治療科	診療科長
34	土肥 謙二		医師	救命救急科（3次）	診療科長
35	垂水 庸子		医師	救急診療科（1・2次）	診療科長
36	矢持 淑子		医師	臨床病理診断科	診療科長
37	山口 麻子		医師	病院歯科	診療科長
38	藤井 隆成		医師	小児循環器・成人先天性心疾患センター （小児循環器内科）	診療科長
39	宮原 義典		医師	小児循環器・成人先天性心疾患センター （小児心臓血管外科）	診療科長
40	若村 邦彦		医師	内視鏡センター	センター長
41	今井 孝成		医師	小児科	センター長
42	五藤 哲		医師	食道がんセンター	センター長
43	加藤 光広		医師	小児科	センター長
44	吉武 理		医師	腎移植センター	センター長
45	安達 太郎		医師	睡眠医療センター	センター長
46	山上 裕機		医師	脾臓がんセンター	センター長
47	小島 康幸		医師	がんゲノム医療センター	センター長
48	谷岡 大輔		医師	診療科長補佐会議	総括診療科長補佐
49	片桐 敦		医師	診療科長補佐会議	副総括診療科長補佐
50	波木井 恵子		看護師	看護部	看護部長
51	中村 綾子		看護師	看護部	看護部次長
52	嶋村 弘史		薬剤部	薬剤部	薬剤部長
53	佐藤 久弥		放射線技師	放射線技術部	技師長
54	町田 あゆみ		管理栄養士	栄養科	責任者
55	大石 竜		臨床工学技士	臨床工学室	技士長
56	家泉 桂一		臨床検査技師	臨床検査室	技師長
57	三邊 武彦		医師	臨床研究支援センター	センター長
58	松平 真悟		医師	統括保険診療管理室	室長
59	石崎 兼司		事務員	事務部	課長
60	山口 義隆		事務員	管理課	課長
61	浅川 悦久		事務員	クオリティマネジメント課	課長
62	田邊 聡		事務員	医事入院課	課長
63	村岡 真輔		事務員	医事外来課	課長
64	布村 順一		事務員	東病院管理課	係長
65	小暮 真也		事務員	施設部	係長
66	西村 美香		事務員	財務部	係長
67	渡邊 百合子		事務員	管理課（運営スタッフ）	係長
68	守屋 希和		事務員	管理課（運営スタッフ）	主査
69	大山 圭太		事務員	管理課（運営スタッフ）	主査
70	小野 梨紗		事務員	管理課（運営スタッフ）	係員
71	村野 敦哉		事務員	管理課（運営スタッフ）	係員
72	五十島 朱那		事務員	管理課（運営スタッフ）	係員
73	田熊 なほみ		事務員	管理課（運営スタッフ）	係員

病院担当理事協議会 構成員

No.	委員長	氏名	役職	利害関係	備考
1	○	小出 良平	学校法人昭和医科大学 総括病院担当理事	有	
2		小口 勝司	学校法人昭和医科大学 理事長	有	
3		村上 雅彦	学校法人昭和医科大学 病院担当理事(東京都)	有	
4		門倉 光隆	学校法人昭和医科大学 病院担当理事(神奈川県)	有	
5		上條 由美	学校法人昭和医科大学 副理事長 昭和医科大学 学長	有	
6		馬場 一美	学校法人昭和医科大学 人事担当理事	有	
7		小川 良雄	学校法人昭和医科大学 総務担当理事	有	
8		相良 博典	昭和医科大学病院 病院長	有	
9		村上 秀友	昭和医科大学病院附属東病院 病院長	有	執行役員
10		鈴木 洋	昭和医科大学藤が丘病院 病院長	有	執行役員
11		市川 博雄	昭和医科大学藤が丘リハビリテーション病院 病院長	有	執行役員
12		坂下 暁子	昭和医科大学横浜市北部病院 病院長	有	執行役員
13		横山 登	昭和医科大学江東豊洲病院 病院長	有	執行役員
14		真田 建史	昭和医科大学烏山病院 病院長	有	執行役員
15		榎 宏太郎	昭和医科大学歯科病院 病院長	有	執行役員
16		田口 彰彦	学校法人昭和医科大学 事務局長	有	執行役員
17		城所 扶美子	学校法人昭和医科大学 統括看護部長	有	執行役員
18		石崎 兼司	学校法人昭和医科大学 統括病院事務部長	有	必要と認められた者
19		大矢 敦	学校法人昭和医科大学 人事部長	有	必要と認められた者
20		眞田 裕	学校法人昭和医科大学 理事長室付相談役	有	必要と認められた者
21		高橋 寛	学校法人昭和医科大学 理事長室付相談役	有	陪席
22		山口 義隆	昭和医科大学病院 管理課長	有	陪席
23		田邊 聡	昭和医科大学病院 医事入院課長	有	陪席
24		佐藤 駿太	昭和医科大学病院 管理課企画庶務係長	有	陪席

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	☒ 有・無
・ 情報発信の方法、内容等の概要 ホームページに記載 (http://www.showa-u.ac.jp/SUH/index.html)	

2 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	☒ 有・無
・ 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 内科医師、外科医師、薬剤師、看護師が診療にあたれるよう「センター化」を行い、複数の診療科をはじめ、多くの医療従事者が1人の患者に関わることで「チーム医療」を実現している。	